
資料編

資料 1-1. アンケート調査から（平成 22 年度／23 年度）

1. 現状に対する評価値を算出するためのアンケート調査（平成 22 年度実施）

戦略ビジョンを構成する政策項目の進捗度合いは、町民の評価と役場担当者による目標値をもとに検証します。町民による評価の値は、アンケート調査から得られた各政策課題に関する満足度と重視度の二つの指標によって示されています。満足度は、町民による回答を統計処理（加重平均）した指標値ですが、重視度は、満足度をもとにさらに統計処理（重回帰分析）を行い、算出しています。4 年後、8 年後、12 年後の目標値は、住民による満足度をもとに、役場の各担当者が自らの仕事の目標として数値化したものです。

4 年ごとに実施する町民アンケート調査でこれらの指標を再び算出し、当初設定していた目標値と比較して、相違の背景、原因を探り、更なる改善の手だてに結びつけます。

ここでは、資料として、調査概要とこの統計処理により算出された結果を掲載します。

（1）調査の概要

■アンケート調査の趣旨と目的：第 4 次総合計画の検証として、①まちづくりの現状をどのように評価するか（満足度）、及び②重要な政策的課題についてどのように考えるか、などを中心に町民意識を把握し、住民意識の重要度認識を分析して、第 5 次総合計画の施策の重点化に反映します。

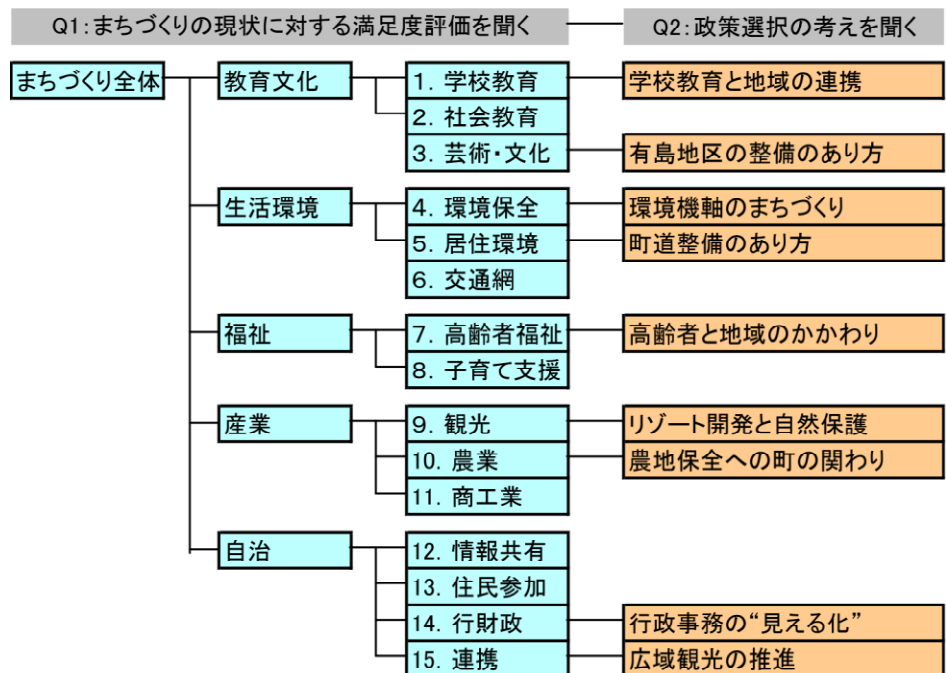
■アンケート調査実施期間：平成 22 年 11 月 25 日（木）～12 月 10 日（金）締め切り

■アンケート調査対象者：18 歳以上のニセコ町民 1,500 人を住民基本台帳から無作為抽出

■回収者数と回収率：回収者数＝806 人、回収率＝53.7%

■回収サンプル集団の統計有意性について：95%有意性（5%棄却）を確保

■調査項目の体系：



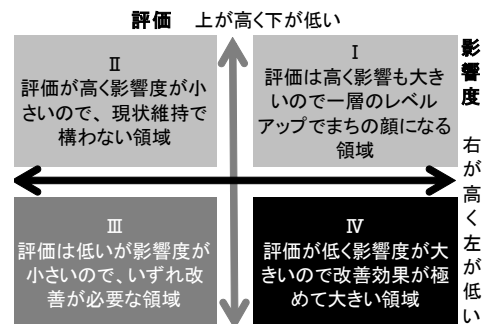
(2) 調査の結果（満足度傾向、満足度平均、多変量解析（重回帰分析）の一覧）

設問分野	設問項目	単純集計の結果※1				満足度平均と満足傾向			重回帰分析結果※5		グラフ上の位置 ※8					
		1 満足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不満	満足度 平均値 ※2	満足 傾向 ※3	満足度 & 不満 度総合 ※4	設問分野 における 影響度 (β)※6	まちづくり 全般への 影響度 (β)※6	β の偏 差※7	平均値 -50	I	II	III	IV
1 学校教育	111 情緒豊かで礼儀正しい子	9.1%	51.1%	28.7%	11.1%	52.3	20.4%		0.128		-0.016	2.3		II		
	112 学習意欲・自分で考える子	5.9%	44.9%	35.8%	13.4%	47.4	1.6%		0.241		-0.009	-2.6			III	
	113 ふるさとニセコを愛する子	9.6%	48.9%	28.7%	12.9%	51.3	16.9%		0.027		-0.023	1.3		II		
	114 国際化・情報化に対応する子	3.6%	36.2%	41.9%	18.3%	41.3	-20.5%	▲	0.114		-0.017	-8.7			III	
	115 幼・小・中・高校間の連携	8.5%	40.8%	29.2%	21.5%	45.0	-1.5%	△	0.226		-0.010	-5.0			III	
	116 学校と地域の連携	7.3%	44.7%	29.4%	18.6%	46.5	4.1%		0.285		-0.006	-3.5			III	
	117 学校養育全般	5.6%	43.4%	34.8%	16.2%	45.7	-2.1%	△		0.062	0.041	-4.3				IV
2 社会教育	121 地域でいつでも学べる仕組み	8.4%	35.8%	36.4%	19.5%	44.0	-11.7%	▲	0.334		0.009	-6.0				IV
	122 地域の学習活動リーダー	3.5%	27.8%	43.3%	25.5%	36.1	-37.5%	▲	0.139		-0.011	-13.9			III	
	123 地域で青少年の健全育成	6.1%	42.0%	35.0%	16.8%	45.4	-3.7%	△	0.168		-0.008	-4.6			III	
	124 市民のスポーツ施設	12.2%	47.1%	24.3%	16.4%	51.3	18.6%		0.352		0.011	1.3	I			
	125 社会教育全般	4.9%	40.6%	39.6%	14.8%	44.8	-8.9%	△		0.094	0.075	-5.2				IV
3 歴史文化	131 有島記念館の展示やイベント	15.0%	53.5%	21.9%	9.7%	57.5	36.9%	○	0.093		-0.019	7.5		II		
	132 有島武郎の歴史文化等継承	14.9%	53.7%	22.7%	8.7%	57.9	37.3%	○	-0.011		-0.025	7.9		II		
	133 文化遺産の発掘や保全活動	8.8%	45.0%	32.7%	13.5%	49.3	7.7%		0.246		-0.010	-0.7			III	
	134 市民の文化活動の活発度	9.0%	46.7%	32.2%	12.1%	50.4	11.3%		0.161		-0.015	0.4		II		
	135 市民の文化活動の施設	7.7%	41.0%	34.2%	17.1%	46.1	-2.5%	△	0.132		-0.017	-3.9			III	
	136 地域文化活動への行政支援	6.0%	44.3%	34.3%	15.4%	46.6	0.6%		0.356		-0.004	-3.4			III	
	137 歴史文化全般	4.3%	46.2%	35.7%	13.8%	46.6	1.0%			0.055	0.034	-3.4				IV
4 環境	141 ごみの分別やりサイクル	26.9%	49.2%	16.0%	7.9%	64.7	52.2%	◎	0.055		-0.030	14.7		II		
	142 二酸化炭素削減の取組	8.4%	51.5%	28.7%	11.4%	51.9	19.8%		0.08		-0.032	1.9		II		
	143 排水処理	20.2%	49.3%	16.8%	13.7%	58.3	39.0%	○	0.114		-0.035	8.3		II		
	144 河川環境の保全	5.8%	43.3%	33.6%	17.3%	45.4	-1.9%	△	-0.028		-0.022	-4.6			III	
	145 森林など緑環境の保全	4.8%	39.8%	34.5%	20.9%	42.5	-10.8%	△	0.285		-0.052	-7.5			III	
	146 土地利用	3.9%	26.5%	35.5%	34.1%	33.1	-39.2%	▲	0.504		-0.072	-16.9			III	
	147 環境全般	4.5%	42.4%	34.8%	18.2%	44.0	-6.1%	△		-0.089	-0.119	-6.0			III	
5 住宅	151 居住地周辺の景観	31.7%	46.2%	14.9%	7.2%	67.1	55.8%	◎	0.375		-0.019	17.1		II		
	152 町営住宅の長寿命化	41.9%	47.4%	7.3%	3.4%	75.6	78.6%	◎	0.166		-0.022	25.6		II		
	153 周辺の生活道路の除排雪	20.4%	36.7%	22.5%	20.4%	52.0	14.2%		0.36		-0.020	2.0		II		
	154 住宅・住宅地全般	16.5%	55.8%	19.9%	7.8%	59.9	44.6%	○		0.013	-0.011	9.9		II		
6 交通網	161 生活道路の整備状況	19.7%	50.8%	19.8%	9.7%	59.8	41.0%	○	0.166		-0.009	9.8		II		
	162 歩いて楽しい道づくり	8.4%	33.2%	33.6%	24.7%	41.4	-16.7%	▲	0.165		-0.009	-8.6			III	
	163 歩道などの安全性	12.0%	33.7%	31.1%	23.3%	44.5	-8.6%	△	0.185		-0.007	-5.5			III	
	164 ふれあいシャトルバス	14.4%	37.4%	26.3%	21.9%	47.7	3.5%		0.307		0.005	-2.3				IV
	165 高速道路や新幹線の誘致	5.8%	25.8%	36.3%	32.3%	34.7	-37.0%	▲	0.265		0.001	-15.3				IV
	166 交通網全般	6.4%	38.6%	33.8%	21.2%	43.0	-10.1%	△		0.091	0.072	-7.0				IV
7 高齢者福祉	171 健康づくりの仕組み	9.5%	48.8%	28.3%	13.4%	51.1	16.7%		0.081		-0.037	1.1		II		
	172 高齢者の地域での見守り	8.6%	38.3%	37.0%	16.0%	46.2	-6.0%	△	0.217		-0.057	-3.8			III	
	173 高齢者の外出と社会参加支援	8.9%	45.6%	35.3%	10.3%	50.6	8.9%		0.189		-0.053	0.6		II		
	174 段差などのバリアフリー	5.2%	31.0%	41.6%	22.2%	39.4	-27.6%	▲	0.173		-0.051	-10.6			III	
	175 高齢者の防犯・防災	3.6%	26.7%	45.7%	24.0%	36.3	-39.5%	▲	0.337		-0.076	-13.7			III	
	176 高齢者福祉全般	5.4%	37.2%	39.1%	18.3%	42.8	-14.8%	▲		-0.142	-0.176	-7.2			III	
8 子育て支援	181 保育所・子育て支援センター等	17.8%	56.1%	14.8%	11.3%	59.7	47.8%	○	0.289		0.002	9.7	I			
	182 子育てできる職場環境	5.9%	42.8%	30.0%	21.4%	44.0	-2.7%	△	0.287		0.002	-6.0				IV
	183 子育ての悩みの相談の仕組み	4.6%	45.7%	35.1%	14.6%	46.3	0.5%		0.138		-0.012	-3.7			III	
	184 家庭における男女共同参画	6.0%	49.0%	32.5%	12.6%	49.0	9.9%		0.283		0.002	-1.0				IV
	185 子育て支援全般	6.2%	48.5%	30.2%	15.1%	48.2	9.4%			0.088	0.069	-1.8				IV
9 観光業	191 農業等他産業と観光の連携	5.7%	40.9%	35.5%	17.8%	44.5	-6.6%	△	0.102		-0.017	-5.5			III	
	192 イベントによる観光需要掘起し	5.9%	38.0%	36.8%	19.3%	43.1	-12.2%	△	0.173		-0.011	-6.9			III	
	193 広域的な観光振興	4.4%	33.1%	42.6%	19.8%	40.4	-24.9%	▲	0.161		-0.012	-9.6			III	
	194 観光客への住民のおもてなし	6.5%	36.8%	37.9%	18.7%	43.3	-13.3%	▲	0.225		-0.007	-6.7			III	
	195 大規模リゾート観光開発	4.0%	25.8%	32.1%	38.1%	31.6	-40.3%	▲	0.349		0.002	-18.4				IV
	196 観光全般	4.6%	38.7%	35.8%	20.9%	42.0	-13.4%	△		0.073	0.053	-8.0				IV

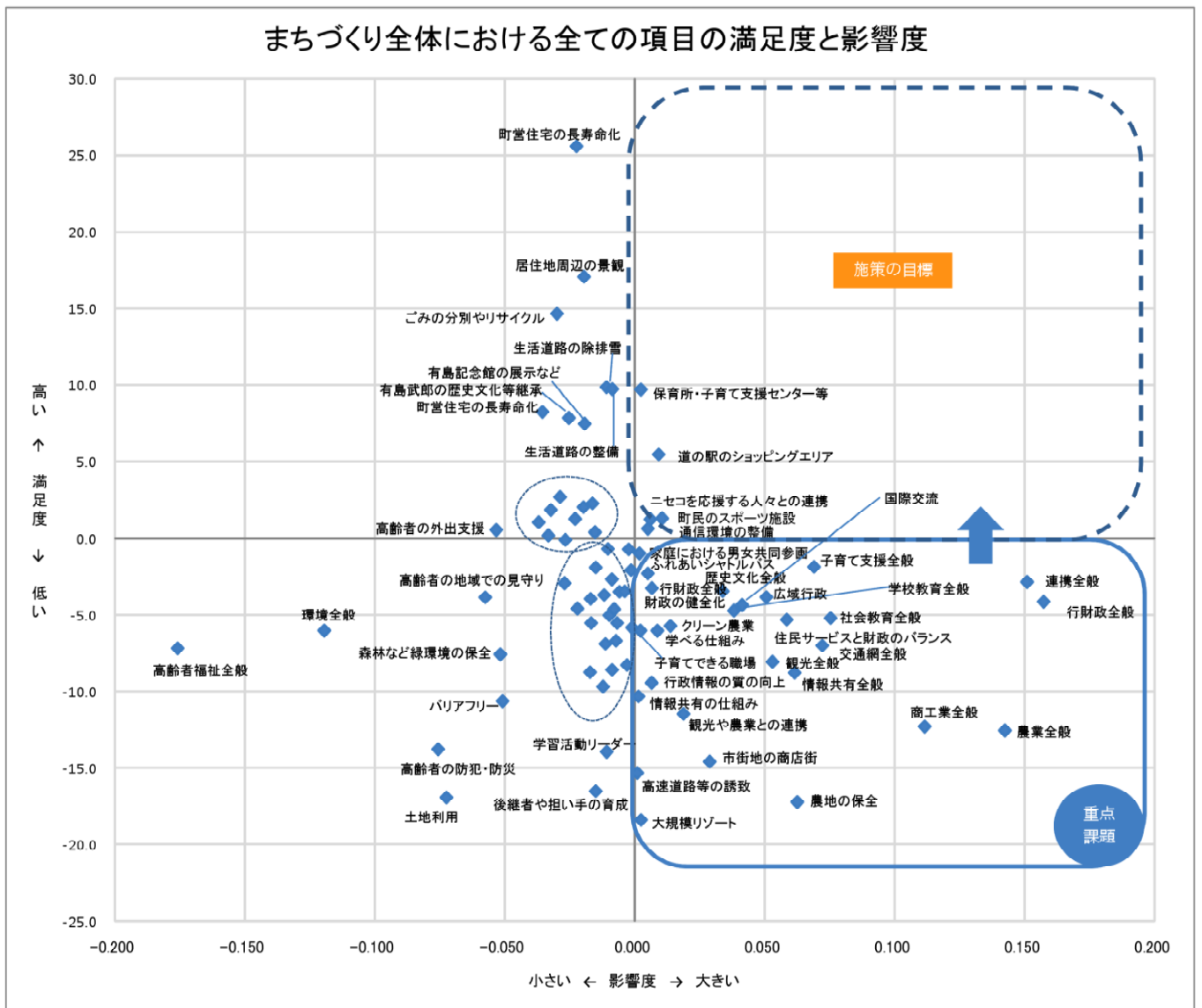
設問分野	設問項目	単純集計の結果※1				満足度平均と満足傾向			重回帰分析結果※5		グラフ上の位置 ※8						
		1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	満足度 平均値 ※2	満足 傾向 ※3	満足度 & 不満 度総合 ※4	設問分野 における 影響度 (β)※6	まちづくり 全般への 影響度 (β)※6	βの偏 差※7	平均値 -50	I	II	III	IV	
10 農業	1101 地元消費者や他産業と連携	4.8%	35.2%	41.7%	18.3%	41.8	-20.1%	▲	0.13		-0.003	-8.2				III	
	1102 担い手や後継者の育成	2.4%	25.7%	43.0%	28.9%	33.5	-43.9%	▲	0.058		-0.015	-16.5				III	
	1103 クリーン農業の展開	5.3%	40.8%	36.6%	17.3%	44.3	-7.8%	△	0.23		0.014	-5.7					IV
	1104 ニセコらしい農村景観	8.2%	45.0%	30.8%	15.9%	48.1	6.5%		0.058		-0.015	-1.9				III	
	1105 農地の保全	4.0%	23.7%	40.0%	32.3%	32.8	-44.7%	▲	0.522		0.063	-17.2					IV
	1106 農業全般	3.2%	32.3%	39.5%	25.1%	37.5	-29.1%	▲		0.157	0.143	-12.5					IV
11 商工業	1111 観光や農業などとの連携	4.9%	34.8%	32.5%	27.8%	38.6	-20.7%	△	0.319		0.019	-11.4					IV
	1112 市街地の商店街	6.0%	28.1%	33.1%	32.8%	35.5	-31.8%	▲	0.393		0.029	-14.5					IV
	1113 道の駅のショッピングエリア	14.7%	51.0%	21.5%	12.7%	55.5	31.4%		0.249		0.009	5.5	I				
	1114 商工業全般	4.0%	31.0%	40.2%	24.8%	37.7	-30.0%	▲		0.128	0.112	-12.3					IV
12 情報共有	1121 情報共有の仕組み	5.3%	34.2%	35.8%	24.6%	39.7	-21.0%	▲	0.303		0.001	-10.3					IV
	1122 行政情報の質の向上	5.6%	35.0%	36.0%	23.4%	40.6	-18.8%	▲	0.362		0.007	-9.4					IV
	1123 通信環境の整備	13.7%	43.5%	25.0%	17.8%	50.7	14.4%		0.345		0.005	0.7	I				
	1124 情報共有全般	5.5%	36.1%	36.1%	22.3%	41.3	-16.8%	▲		0.081	0.062	-8.8					
13 住民参加	1131 住民参加のしやすさ	8.4%	48.6%	28.6%	14.4%	49.9	14.0%		0.234		-0.027	-0.1				III	
	1132 人の輪を大切にしたいまちづくり	7.3%	44.7%	31.1%	16.8%	47.1	4.1%		0.271		-0.027	-2.9				III	
	1133 まちづくり基本条例の運用	8.3%	54.6%	25.4%	11.7%	52.7	25.8%		0.472		-0.029	2.7			II		
	1134 住民参加全般	8.6%	47.9%	30.3%	13.2%	50.2	13.0%			-0.008	-0.033	0.2			II		
14 行財政	1141 住民に対する行政の対応	8.6%	48.0%	27.4%	16.0%	49.3	13.2%		0.123		-0.002	-0.7				III	
	1142 行政事務の透明性	9.6%	43.8%	28.5%	18.0%	48.0	6.9%		0.128		-0.001	-2.0				III	
	1143 役場職員の能力向上	9.0%	38.7%	29.0%	23.2%	44.2	-4.4%	△	0.13		-0.001	-5.8				III	
	1144 町の財政の健全化	7.0%	45.9%	28.8%	18.3%	46.8	5.8%		0.172		0.007	-3.2					IV
	1145 住民サービスと財政のバランス	6.2%	42.8%	31.2%	19.8%	44.7	-2.1%	△	0.457		0.059	-5.3					IV
	1146 行財政全般	6.1%	44.6%	31.5%	17.9%	45.9	1.3%			0.171	0.157	-4.1					IV
15 連携	1151 ニセコを応援する人々との連携	7.5%	49.3%	33.8%	9.3%	51.3	13.7%		0.175		0.006	1.3	I				
	1152 広域行政サービス	6.0%	43.0%	35.7%	15.3%	46.2	-1.9%	△	0.429		0.051	-3.8					IV
	1153 国際交流活動の仕組みづくり	5.7%	40.5%	39.0%	14.8%	45.3	-7.5%	△	0.358		0.038	-4.7					IV
	1154 連携全般	3.8%	45.7%	40.0%	10.5%	47.2	-1.0%	△		0.165	0.151	-2.8					IV
16	1160 10年間のまちづくり全般	6.2%	52.0%	30.1%	11.7%	50.5	16.5%										

注 ※1 選択肢「5わからない」及び無回答の全てを除き、明確な回答のあった分だけを対象に算出した。
 ※2 「満足」=100、「やや満足」=66、「やや不満」=33、「不満」=0として、加重平均を算出した値である。
 ※3 「満足」+「やや満足」-（「やや不満」+「不満」）の式で算出した値で、満足傾向が大きければプラスの値、不満傾向が大きければマイナスの値になる。
 ※4 「不満」あるいは「やや不満」のいずれか、平均値<50、満足傾向マイナス、の3つの指標のうち、3つ該当すれば▲、2つ該当すれば△とした。
 「満足」あるいは「やや満足」のいずれか、平均値>50、満足傾向プラス、の3つの指標のうち、3つ該当すれば◎、2つ該当すれば○とした。
 ※5 ここでは、※2の換算をもとに重回帰分析を行った。「重回帰分析」については、下記※9を参照のこと。ちなみに、重回帰分析の精度（当てはまりの良さ）を示す指標、由度調整済み決定係数（r2）は、ほぼ全てのモデルにおいてr2>0.6（1つだけr2=0.445）であることから、解析結果の精度は良好と判断できる。
 ※6 上記注5の「重回帰分析」によって導かれた「標準化偏回帰係数（β）」を、ここでは影響度の大きさを示す指標値として用いる。
 この値は、全体を1とした時の、個々の影響度を示す値である。
 ※7 各設問分野ごとのβ（※6参照）の平均値と、当該項目のβの差
 ※8 右の図を参照
 ※9

「重回帰分析」というのは、「学校教育」を例に説明すると、次のような考え方の統計分析である。「学校教育全般」についての満足度は、アンケートの質問項目を例にとると、例えば「情緒豊かで礼儀正しい子」から「学校と地域の連携」までの6項目それぞれの個別の満足度評価から複合的に形成されたものと考えられる。そこで、「情緒豊かで礼儀正しい子」から「学校と地域の連携」までの6項目の個々の評価が「学校教育全般」の評価にどの程度影響しているのかを見出せば、影響の大きい項目の改善が、全体の改善に最も効果的に寄与することが分かるので、効率的な施策を絞り込んで選択できるということになる。
 このような統計分析は、評価する人の潜在意識を明らかにすることになるので、住民意識の本音に基づく施策重点化の方向を探ることになるとも言える。このような考え方に基づく重回帰分析の結果をもとに、満足度と影響度を2次元で同時に把握できるよう、散布グラフを示した。この散布グラフは、右下の図のように、施策・事業の優先度を4つのレベルに分けて示していると解釈することができる。



(3) 調査の結果（散布図）



※ このグラフにおける「影響度」（偏回帰係数： β ）は、基本計画における評価値としての「重視度」（偏回帰係数： β ）と同じものですが、上記のグラフでは全ての項目の係数を一元的に換算してあるので、基本計画の中で使用している「重視度」（各領域ごとの偏回帰係数）とは値が異なります。しかし、換算の仕方が異なるだけで、影響度合い、重視度度合いそのものには変わりはありません。

2. 政策判断と地区ビジョンに向けたアンケート調査（平成 23 年度実施）

- ① 平成 22 年度における調査結果をもとに、平成 23 年度において総合計画の組立を行うなかで、調査結果を適切に反映させるため、主要な政策課題についてより絞り込んだ住民意向や参加意欲などを把握するためのアンケート調査を行いました。
- ② また、町内 5 地区それぞれの地域特性に見合った「地区ビジョン」の策定を目指し、第 1 回目のアンケート調査によって明らかとなった地区ごとの課題を対象に、それらを絞り込んだ論点として地区住民に質問しました。この質問部分は、5 地区それぞれの異なる内容としました。

（1）調査の概要

- アンケートの位置づけ：これまでの「調査結果（H22 年のアンケートも含め）」をもとに組み立てた「戦略ビジョン」の各プロジェクトの中から「アンケート項目」を抽出し、その結果などをもとに、戦略ビジョンごとに「目標」を掲げ、その目標達成により「ニセコの将来像」実現を期すこととします。
- 実施期間：平成 23 年 9 月～10 月
- 調査対象者：18 歳以上のニセコ町民
- 配票数：5 地区それぞれで最小でも 50 人程度の調査票が回収できるよう、配票数を配分しました。
- サンプリング：層化無作為抽出
- 回収数と回収率および回収サンプルの属性構造

回収率 30.9%は決して高い水準ではないが、各地区ともほぼ同水準の回収率となっていること、また、回収数が 95%の信頼度となる 400 サンプルを超える 463 となっており、無作為抽出による調査結果として、母集団となるニセコ町全町民の意識を推計する上で充分の有意性を確保しています。

また、回収されたサンプルの属性構造が、性別、年齢階層、居住地区の観点からは、母集団とほぼ誤差の範囲内に収まっていることから、回収されたサンプル集団が母集団と同様の構造を持つものであることも示されたので、上記の点と合わせ、母集団であるニセコ町民の総意を測る上で充分の有意性を確保できたものといえます。

（2）調査の結果

問 1～問 10 までは、5 地区とも共通の設問内容であり、全町対象の調査項目です。これらの内容とその回答割合について、地区別のクロス集計結果と併せて記します。また、問 12 以降は、地区ごとに異なる内容の質問です。

■全町に共通の質問から

問1 化石燃料に頼らない、小水力や雪氷、地中熱などの自然エネルギーを地域全体に広げるため、あなたも導入したいと思いますか？

	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 実際に負担可能な範囲の光熱費であれば、多少高くても積極的に導入したい	29.2%	41.8%	40.0%	21.1%	41.1%	24.1%
2) 現状の光熱費よりも安くなるようになれば、導入してもよい	54.0%	46.2%	46.7%	61.0%	41.1%	55.2%
3) 特に導入したいとは思わない	8.2%	6.6%	0.0%	8.8%	8.9%	12.1%
4) わからない	8.2%	4.4%	13.3%	8.8%	8.9%	8.6%
無回答	0.4%	1.1%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%

問2 川北地区の一部を指定している準都市計画を全町域に広げたり、市街地に都市計画を導入するなど、土地利用計画の拡充により開発規制を強化する考え方について、どのように思いますか？

	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 望ましくない開発を抑制するため個人等の権利を多少制約したり負担を願うのはやむを得ない	29.6%	40.7%	13.3%	21.9%	46.4%	34.5%
2) 個人等の権利の制約にもなるので、十分な議論と合意形成の上、最小限に導入すべき	40.8%	34.1%	50.0%	51.3%	23.2%	22.4%
3) 現状でも十分に開発抑制ができていますので、当面は新たな規制制度は必要ない	10.4%	14.3%	3.3%	8.8%	8.9%	15.5%
4) わからない	17.3%	9.9%	33.3%	15.8%	17.9%	25.9%
無回答	1.9%	1.1%	0.0%	2.2%	3.6%	1.7%

問3 町内の農地景観を保全することが、所有者の高齢化等で困難な場合、住民がボランティア等で景観を保全する活動に、あなたは参加する意思はありますか？

	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 良好な景観は地域全体の財産なので、ボランティア参加には積極的に参加したい	21.2%	29.7%	23.3%	17.1%	28.6%	15.5%
2) 参加したい気持ちはあるが、現状では参加できる条件がそろわない	51.6%	45.1%	53.3%	55.7%	35.7%	60.3%
3) 所有者である農家あるいは公共機関がすべきことで、他の住民は関わらなくてよいと思う	12.3%	12.1%	3.3%	11.4%	16.1%	17.2%
4) わからない	13.2%	13.2%	16.7%	13.2%	17.9%	6.9%
無回答	1.7%	0.0%	3.3%	2.6%	1.8%	0.0%

問4 ニセコ産の安全安心な農作物の地産地消を推進するため、ニセコ産の農産物を購入しますか。

	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 購入できる場が増えて多くの場所で購入できれば、地元産の農産物を積極的に購入したい	64.1%	63.7%	66.7%	63.6%	71.4%	58.6%
2) 大切なことだが、他より価格が高ければ、なかなか地元産を購入できない	23.1%	23.1%	23.3%	24.6%	17.9%	22.4%
3) とにかく安く美味しければよいので、地元産には全くこだわらない	10.8%	11.0%	3.3%	11.4%	7.1%	15.5%
4) わからない	0.6%	2.2%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
無回答	1.3%	0.0%	6.7%	0.4%	1.8%	3.4%

問5 国際的なリゾート観光のお客さんをニセコの地域文化でおもてなしする活動に参加しますか。

	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 異文化の理解と交流は大切なことなので、積極的に参加して活動したい	16.8%	27.5%	16.7%	15.8%	14.3%	6.9%
2) 文化交流は、自分に余裕がある時だけ参加したい	51.8%	45.1%	50.0%	53.5%	60.7%	48.3%
3) そのような活動にほとんど関心がないので、参加しない	18.8%	11.0%	10.0%	21.5%	16.1%	27.6%
4) わからない	10.4%	13.2%	23.3%	7.0%	8.9%	13.8%
無回答	2.2%	3.3%	0.0%	2.2%	0.0%	3.4%

問6 商店街の活性化は、住民の消費行動によって支えられますが、地元商店で買い物をしますか？	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 商店の努力も必要であるが、自分もなるべく地元で買物をして支えるようにしたい	46.4%	38.5%	40.0%	51.8%	37.5%	50.0%
2) 商店の努力が目に見えないのであれば、買い物をしたいとは思わない	30.0%	35.2%	30.0%	31.6%	28.6%	17.2%
3) 町外にある大きな店舗で買い物をしたい	18.4%	20.9%	16.7%	13.2%	25.0%	29.3%
4) わからない	3.2%	4.4%	6.7%	2.6%	3.6%	1.7%
無回答	1.9%	1.1%	6.7%	0.9%	5.4%	1.7%

問7 有島武郎の残した芸術文化や精神に関心をもって、芸術文化活動に参加したいと思えますか？	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 関心があり共感できるので、芸術文化活動には積極的に参加したい	11.9%	16.5%	16.7%	11.0%	8.9%	8.6%
2) 特に共感を覚えるほど関心を持ってはいないが、歴史遺産として活用すべきだ	66.1%	61.5%	63.3%	68.9%	66.1%	63.8%
3) そもそも関心が全くない	15.6%	17.6%	6.7%	13.2%	17.9%	24.1%
4) わからない	6.0%	3.3%	10.0%	7.0%	7.1%	3.4%
無回答	0.4%	1.1%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%

問8 町民各々の多様な経験や知識等を活用し、地域で互いに学んだり活動したいと思えますか。	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) そのような機会に積極的に参加して、自分の関心事について学び、自分の力を発揮したい	30.0%	39.6%	40.0%	23.7%	39.3%	25.9%
2) 関心のあることを学んだり活動したいと思うが、忙しいので無理だと思う	44.3%	37.4%	30.0%	50.9%	35.7%	44.8%
3) 関心を持って学んだり活動したいと思うことがないので、参加はしない	11.7%	9.9%	6.7%	12.3%	12.5%	13.8%
4) わからない	10.2%	8.8%	16.7%	8.8%	10.7%	13.8%
無回答	3.9%	4.4%	6.7%	4.4%	1.8%	1.7%

問9 独居や高齢者の世帯を見守るネットワークが必要と思えますか。また、参加したいと思えますか。	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) 見守るだけでなく、高齢者の知恵を学ぶ機会でもあるので、支え合う場として参加したい	35.2%	37.4%	46.7%	32.0%	41.1%	32.8%
2) 必要なことだとは思いますが、自分は忙しいし、なかなか参加できない。	43.8%	44.0%	26.7%	44.7%	37.5%	55.2%
3) 関係機関がそのような見守りをすべきで、住民の仕事ではない	7.8%	6.6%	3.3%	8.8%	8.9%	6.9%
4) わからない	9.1%	9.9%	13.3%	11.0%	5.4%	1.7%
無回答	4.1%	2.2%	10.0%	3.5%	7.1%	3.4%

問10 地域社会の課題について、行政任せにせず、住民自らも自発的に活動する仕組みを創り、参加したいと思えますか。	全町	川北	有島	市街	近藤	南西
1) そのような活動を自分でも呼び掛けたり、参加したいと思う	11.7%	16.5%	20.0%	7.0%	17.9%	12.1%
2) そのような活動を自分で呼び掛けるのは難しいが、参加することはできる	61.3%	57.1%	60.0%	66.2%	60.7%	50.0%
3) 呼び掛けるのも参加するのも、全く関心がない	9.1%	12.1%	0.0%	7.0%	12.5%	13.8%
4) わからない	14.5%	13.2%	13.3%	14.9%	8.9%	20.7%
無回答	3.5%	1.1%	6.7%	4.8%	0.0%	3.4%

問11 ニセコ町が今後のまちづくりを進める上で、あなたはどんなことが重要だと思いますか。また、どのような活動に参加してみたいと思っていますか。自由にお書きください。

※省略

■地区ごとに異なる質問から

(1) 川北地区

問12 川北地区の将来像として、最も大切にしたい地域の姿はどのようなものだと考えますか。

1) 自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい	52.7%
2) 農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい	18.7%
3) リゾート観光エリアとしての地域の姿を最も大切にしたい	9.9%
4) 国際的に自由に経済活動がなされる地域の姿を最も大切にしたい	6.6%
5) わからない	7.7%
無回答	3.3%

問13 川北地区の農業地域において、特に強く心配している農業の課題は何ですか。

1) 国営農地基盤整備事業が期待された効果を発揮できるか	5.5%
2) 農家の後継者不足が解消されるかどうか	16.5%
3) 高齢化した農家の農地が、適切に引き継がれるかどうか	28.6%
4) 個人農家の経営の限界を解決するため、農業法人化が進むかどうか	14.3%
5) 国などの農政が安定化しないこと	11.0%
6) わからない	22.0%
無回答	2.2%

問14 川北地区の観光リゾート開発で、特に気になることは何ですか。

1) 土地の買い占めが進行するおそれがあること	22.0%
2) 水源地とその周辺の土地が買われ、水源が地域外の所有者に移転するおそれがあること	27.5%
3) 取水量が増えて、水源が枯渇するおそれがあること	4.4%
4) 森林の伐採が進むおそれがあること	14.3%
5) 排水や廃棄物等の増加による環境への影響	17.6%
6) リゾート客と地域住民との協調性が維持されるかどうか	4.4%
7) わからない	4.4%
無回答	5.5%

(2) 有島地区

問12 有島地区の将来像として、最も大切にしたい地域の姿はどのようなものだと考えますか。

1) 自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい	33.3%
2) 農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい	13.3%
3) 観光エリアとしての地域の姿を最も大切にしたい	6.7%
4) 有島武郎や有島農場の芸術や歴史文化を伝える地域の姿を最も大切にしたい	26.7%
5) わからない	16.7%
無回答	3.3%

問13 有島地区の農業地域において、特に強く懸念している農業の課題は何ですか。

1) 国営農地基盤整備事業が期待された効果を発揮できるか	0.0%
2) 農家の後継者がいなくなった後どうなるのか	30.0%
3) 高齢化した農家の農地が、適切に引き継がれるかどうか	30.0%
4) 個人農家の経営の限界を解決するため、農業法人化が進むかどうか	0.0%
5) 国などの農政が安定化しないこと	6.7%
6) わからない	26.7%
無回答	6.7%

問14 有島地区の歴史文化の保全で、特に気になることは何ですか。

1) 有島農場の原風景が維持されるかどうか	16.7%
2) 有島謝恩会の高齢化に伴い、有島地区の文化遺産を継承する地域共同体が維持されるかどうか	30.0%
3) 相互扶助など有島武郎の思想や文学への関心が継承されるのかどうか	20.0%
4) 排水や廃棄物等の増加による環境への影響	6.7%
5) わからない	20.0%
無回答	6.7%

(3) 市街地区

問12 市街地区の将来像として、最も大切にしたい地域の姿はどのようなものだと考えますか。

1) 教育文化施設や福祉施設、行政施設など、公共施設が集積している地域の姿を最も大切にしたい	33.3%
2) 綺羅街道など商業施設が集積している地域の姿を最も大切にしたい	27.6%
3) 会社や事務所など業務施設が集積している地域の姿を最も大切にしたい	3.5%
4) 駅前など人々が多く交流している地域の姿を最も大切にしたい	17.1%
5) わからない	14.9%
無回答	3.5%

問13 市街地区の商業集客機能を活性化する上で、優先すべき課題は何だと考えますか。

1) 綺羅街道の再活性化	28.5%
2) 役場前の停車場線の再開発活性化	22.4%
3) JRニセコ駅前空間の再開発活性化	30.7%
4) わからない	14.5%
無回答	3.9%

問14 市街地区の住宅政策について、どのように考えますか。

1) 従来通り、公営住宅の建設と供給を基本として考えるのが良い	27.6%
2) 公営住宅の供給は引き続き必要だが、民間が建てた住宅を公共が借り上げて使うのが良い	30.7%
3) 公営住宅の供給はそろそろやめて、民間による住宅提供システムを基本とすべきだ	25.4%
4) わからない	12.7%
無回答	3.5%

問15 市街地区の将来をより良いものにするため活用を進めた方がいいと思う地域資源は何ですか

1) 綺羅街道	30.7%
2) 綺羅の湯	8.8%
3) あそぶっくなどの公共施設	13.6%
4) 駅前倉庫群	32.0%
5) わからない	13.2%
無回答	1.8%

(4) 東部地区

問12 近藤地区の将来像として、最も大切にしたい地域の姿はどのようなものだと考えますか。

1) 自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい	33.9%
2) 農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい	16.1%
3) 地域と学校など住民が交流できる場としての地域の姿を最も大切にしたい	32.1%
4) わからない	14.3%
無回答	3.6%

問13 近藤地区の農業地域において、特に強く懸念している農業の課題は何ですか。

1) 国営農地基盤整備事業が期待された効果を発揮できるか	3.6%
2) 農家の後継者不足が解消されるかどうか	19.6%
3) 高齢化した農家の農地が、適切に引き継がれるかどうか	25.0%
4) 個人農家の経営の限界を解決するため、農業法人化が進むかどうか	5.4%
5) 国などの農政が安定化しないこと	12.5%
6) わからない	33.9%
無回答	0.0%

問14 近藤地区の将来をより良いものにするため活用を進めた方がいいと思う地域資源は何ですか

1) 農村景観	16.1%
2) 山や森の自然景観	26.8%
3) 近藤小学校	12.5%
4) ビュープラザ	10.7%
5) 未来の森	0.0%
6) 地域住民の団結力	17.9%
7) わからない	14.3%
無回答	1.8%

(5) 南西地区

問12 南西地区の将来像として、最も大切にしたい地域の姿はどのようなものだと考えますか。

1) 自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい	37.9%
2) 農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい	46.6%
3) 観光リゾート地としての地域の姿を最も大切にしたい	6.9%
4) わからない	3.4%
無回答	5.2%

問13 南西地区の農業地域において、特に強く懸念している農業の課題は何ですか。

1) 国営農地基盤整備事業が期待された効果を発揮できるか	1.7%
2) 農家の後継者不足が解消されるかどうか	27.6%
3) 高齢化した農家の農地が、適切に引き継がれるかどうか	29.3%
4) 個人農家の経営の限界を解決するため、農業法人化が進むかどうか	10.3%
5) 国などの農政が安定化しないこと	12.1%
6) わからない	15.5%
無回答	3.4%

問14 南西地区の将来をより良いものにするため活用を進めた方がいいと思う地域資源は何ですか

1) 農村景観	41.4%
2) 山や森の自然景観	34.5%
3) 農産物の直売所など地域とのふれあい	12.1%
4) わからない	5.2%
無回答	6.9%



資料 1-2. 計画の策定過程

2010年7月～	庁内及び町内のヒアリング調査実施（～2012年9月）
2010年10月7日	第1回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2010年11月25日	第1回町民アンケート実施（～12月10日）
2010年12月17日	第2回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2011年3月3日	第3回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2011年3月30日	第1回子どもワークショップ 開催
2011年5月中旬	在住外国人に対するヒアリング調査
2011年6月9日	第4回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2011年8月1日～8月26日	庁内における政策項目と事業項目に関するローリング（1回目）
2011年8月3日	有島地区意見交換会
2011年8月27日	第2回子どもワークショップ 開催
2011年8月30日	第5回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2011年8月31日	外国人住民を囲んでの意見交換会
2011年10月11日	第2回町民アンケート実施（～10月28日）
2011年11月17日～12月9日	各地区まちづくり懇談会で総合計画に関する意見交換会
2011年11月22日～12月15日	庁内における政策項目と事業項目に関するローリング（2回目）
2011年11月25日	第6回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2012年1月12日	第7回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催
2012年1月20日～31日	庁内における政策項目と事業項目に関するローリング（3回目）
2012年2月8日-21日	第5次ニセコ町総合計画 パブリックコメント
2012年2月21日	第8回第5次ニセコ町総合計画策定審議会 開催 第5次ニセコ町総合計画町民説明会・講演会
2012年2月23日	パブリックコメントの公表
2012年3月1日	第5次ニセコ町総合計画案の答申



資料 1-3. 第 5 次ニセコ町総合計画策定審議会 委員

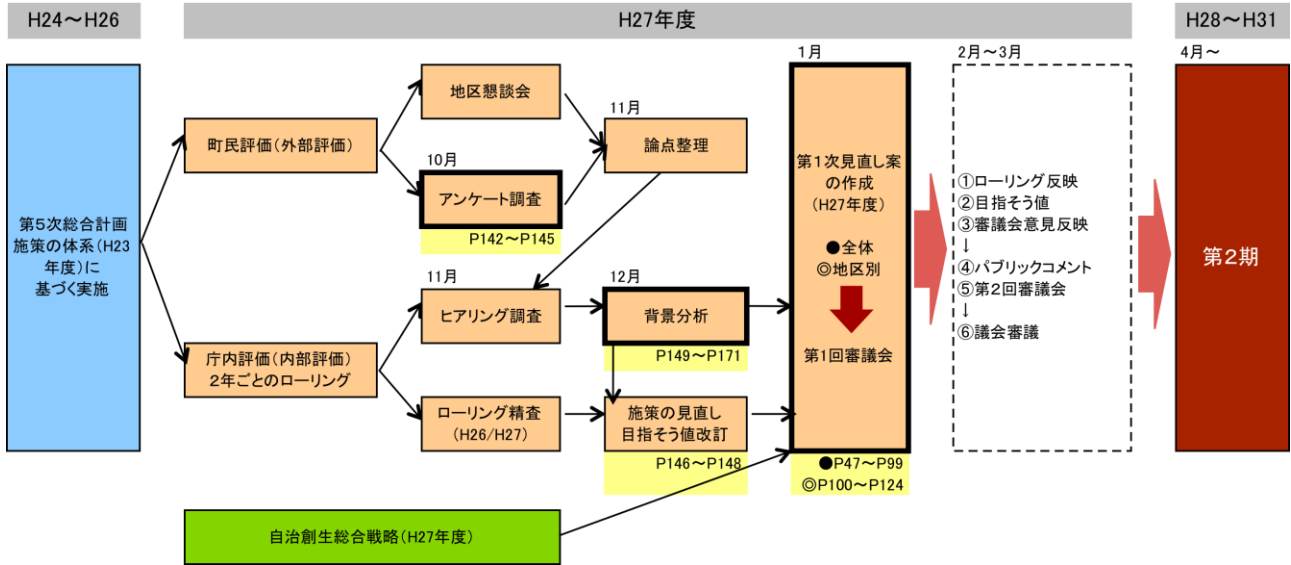
※ 敬称略(五十音順)

	氏名	備考
委員長	瀬戸口 剛	
副委員長	松田 裕子	
	川口 滋子	
	工藤 達人	
	久保 朋子	第3回審議会(2011年3月3日)から退任
	斉藤 うめ子	
	佐々木 涼子	
	佐藤 昇平	
	竹内 弘	
	中島 日出男	
	中村 和美	
	牧野 雅之	
	松橋 京子	
	水町 由理子	
	南 厚志	

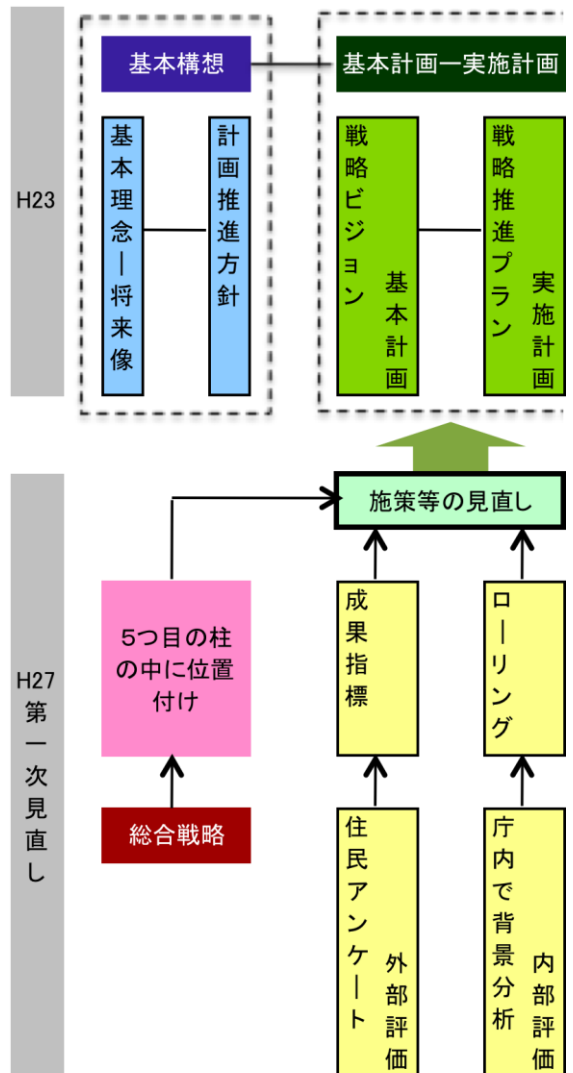


資料2-1. 第1次見直し（平成27年度）の進め方

(1) 第1次見直し作業の流れ（※参照：5ページ）



(2) 第1次見直し版計画内容の流れ
（※参照：6ページ）





資料2-2. 第1次見直しのアンケート調査から（※参照：8ページ）

■アンケート調査の趣旨と目的：第5次総合計画の第1期（平成24～27年度／4年間）の検証として、まちづくりの現状をどのように評価するか（満足度）について、町民意識を把握し、アンケート結果から重要度認識を分析して、第5次総合計画の第1期見直しに反映する。

■アンケート調査実施期間：平成27年10月5日（月）～10月19日（月）締め切り

■アンケート調査対象者：18歳以上のニセコ町民1,500人を住民基本台帳から無作為抽出

■回収者数と回収率：回収者数＝585人、回収率＝39.0%

■回収サンプル集団の統計有意性について：95%有意性（5%棄却）を確保

■調査項目の体系：前回（平成22年度実施）と基本的に同じだが、前回聞いていない項目で新たに追加した項目もある。また、設問の文章表現を修正したものもある。

回収された回答数の属性分布は次のようになっており、有島地区の方々の回答数が大きく、川北地区と市街地区では、反対に回答数が少ない。

	サンプル	母集団		差異（ポイント）
男性	47.4%	1,658	49.9%	-2.6
女性	52.6%	1,662	50.1%	2.6
3,320				

	サンプル	母集団		差異（ポイント）
川北地区	13.1%	633	19.1%	-5.9
有島地区	21.4%	226	6.8%	14.6
市街地区	41.5%	1,632	49.2%	-7.7
近藤地区	10.2%	418	12.6%	-2.4
南西地区	13.7%	411	12.4%	1.3
3,320				

・有島地区からの回答がかなり多い。
 ・反対に、川北地区と市街地区からの回答が少ない。
 ・地区別に見た場合大きな特徴を示す南西地区は、ほぼバイアスが見られない

	サンプル	母集団		差異（ポイント）
18～19歳	1.6%	69	2.1%	-0.5
20～29歳	3.3%	250	7.5%	-4.3
30～39歳	11.4%	514	15.5%	-4.1
40～49歳	15.9%	723	21.8%	-5.9
50～59歳	20.3%	580	17.5%	2.8
60～64歳	13.2%	345	10.4%	2.8
65～69歳	13.4%	349	10.5%	2.9
70～74歳	11.0%	249	7.5%	3.5
75歳以上	9.9%	241	7.3%	2.7
3,320				

・40歳代の回答が少ない。
 ・全体に、若年層の回答が少なく、高齢者の回答が多い傾向にある。

※それぞれの比率は、端数処理により、表記された数字をそのまま合計しても、100%にならない場合があります。

1 くらしやまちづくりに関する満足度をお聞きます。

平成27年度のアンケート調査における設問項目		満足	やや満足	やや不満	不満	二セコ町全体の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
(1)	子どもの教育に関する次の各項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	情緒豊かで礼儀正しい子どもの教育について	11.1%	55.8%	23.7%	9.4%	52.3	55.8	3.5	II	I
2	学習意欲があり、自分で考えることができる子供の教育について	8.2%	43.2%	37.3%	11.3%	47.4	49.0	1.6	IV	IV
3	ふるさとニセコを愛する子供の教育について	12.4%	52.4%	27.2%	7.9%	51.3	56.0	4.7	II	II
4	国際化や情報化に対応できる子供の教育について	10.0%	47.1%	31.5%	11.4%	41.3	51.5	10.2	III	II
5	幼児センターから高等学校まで連携して、教育や子育てを向上させているか	7.8%	37.7%	35.2%	19.2%	45.0	44.4	-0.6	IV	IV
6	学校教育と地域住民は連携して教育環境の充実を図っているか	8.3%	37.9%	39.0%	14.8%	46.5	46.2	-0.3	IV	IV
7	「子どもの教育」全体についての満足度は?	5.4%	45.1%	35.6%	13.9%	45.7	46.9	1.2	IV	IV
(2)	地域住民の学習機会に関する次の各項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	「あそぶっく」が地域住民の学びの場になっているかについて	24.4%	53.4%	15.5%	6.7%		64.8			II
2	「あそぶっく」以外の、学びの場や機会について	5.6%	31.6%	44.4%	18.4%	44.0	41.1	-2.9	IV	III
3	地域住民の学習活動のリーダーが育っているかについて	3.9%	25.6%	43.4%	27.1%	36.1	35.1	-1.0	III	IV
4	地域において青少年が健全に育っていると思うか	8.8%	56.4%	27.6%	7.2%	45.4	55.1	9.7	IV	II
5	町民が利用するスポーツ施設について	12.0%	47.9%	26.6%	13.5%	51.3	52.3	1.0	I	I
6	スポーツ合宿の誘致が可能な施設について	5.4%	25.1%	39.0%	30.5%		34.8			IV
7	「地域住民の学習機会」全体についての満足度は?	6.3%	41.2%	38.2%	14.3%	44.8	46.1	1.3	IV	III
(3)	地域の歴史文化に関する次の各項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	有島記念館の展示やイベントについて	16.0%	56.0%	20.0%	8.0%	57.5	59.6	2.1	II	II
2	有島武郎や有島農場の歴史、文化、景観などの継承について	15.2%	57.3%	19.0%	8.5%	57.9	59.3	1.4	II	II
3	先人の優れた知恵や経験などの文化遺産を発掘・保全する活動について	8.9%	44.6%	36.6%	9.8%	49.3	50.5	1.2	IV	II
4	地域の歴史文化を活用した様々なイベントや事業の実施について	7.8%	41.9%	35.0%	15.3%		47.0			IV
5	町民の文化活動が活発に行われているかについて	8.3%	49.9%	30.3%	11.6%	50.4	51.2	0.8	II	I
6	町民が文化活動を行う施設について	10.9%	46.9%	29.5%	12.7%	46.1	51.6	5.5	III	II
7	町民の文化活動に対する行政の支援について	9.3%	42.7%	35.5%	12.5%	46.6	49.1	2.5	IV	IV
8	「地域の歴史文化」全体についての満足度は?	6.1%	42.6%	36.2%	15.1%	46.6	46.2	-0.4	IV	III
(4)	環境の保全・創造に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	環境への配慮を評価する仕組みについて	14.0%	55.4%	22.2%	8.5%		57.8			II
2	ごみの分別やリサイクルの仕組みなどについて	18.5%	52.6%	20.3%	8.6%	64.7	59.9	-4.8	II	I
3	公共下水道や合併処理浄化槽など排水処理による水環境の保全について	21.8%	54.6%	15.4%	8.1%	58.3	63.0	4.7	II	II
4	水源や水源周辺地の保全について	23.2%	53.8%	16.1%	6.9%		64.0			II
5	安全・安心でおいしい水の供給について	39.8%	47.1%	9.4%	3.7%		74.0			II
6	市街地やリゾート地、農地における河川環境の保全について	12.3%	52.5%	27.3%	7.8%	45.4	56.0	10.6	III	II
7	市街地やリゾート地、農地における森林など緑環境の保全について	9.4%	51.5%	28.4%	10.7%	42.5	52.7	10.2	IV	II
8	ニセコ町の土地利用が適切に行われているかについて	5.8%	31.4%	39.7%	23.1%	33.1	39.7	6.6	IV	III
9	準都市計画区域のエリアの現状について	8.4%	35.7%	41.0%	15.0%		45.4			IV
10	「環境の保全・創造」全体についての満足度は?	7.5%	52.6%	31.9%	8.0%	44.0	52.7	8.7	III	II
(5)	地域における再生エネルギーの活用と省エネの状況について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	再生可能エネルギー(太陽光、水力等)を自給する仕組みづくりについて	4.8%	23.7%	39.7%	31.7%		33.6			III
2	暮らしや経済活動における二酸化炭素削減の取組について	6.7%	31.8%	42.7%	18.7%	51.9	41.8	-10.1	II	IV
3	地域の実状に見合った多様な再生可能エネルギーの生産について	7.2%	23.9%	41.3%	27.7%		36.6			III
4	地域交通における省エネルギーの推進について	5.2%	31.8%	43.8%	19.1%		40.7			III
5	エネルギー等環境に関する地域課題を解決するビジネスの起業について	5.2%	18.6%	49.0%	27.1%		33.7			IV
6	「地域における再生エネルギーと省エネ活動」全体についての満足度は?	4.0%	27.6%	45.8%	22.5%		37.4			IV
(6)	住宅や住宅地に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
1	現在住んでいる居住地周辺の景観について	28.0%	52.5%	13.0%	6.5%	67.1	66.9	-0.2	I	II
2	町営住宅を修理しながら長く使うことについて	33.7%	52.2%	10.5%	3.6%	75.6	71.6	-4.0	II	II
3	居住者の家族構成と町営住宅の広さが見合うような調整が行われているか	9.8%	38.7%	28.9%	22.6%		44.9			III
4	住宅不足を解消するための、民間住宅の建設促進について	10.9%	44.0%	29.3%	15.8%		49.6			III
5	現在住んでいる居住地周辺の生活道路の除排雪について	18.5%	36.7%	23.6%	21.2%	52.0	50.5	-1.5	I	I
6	中古住宅(空き家)の活用について	5.1%	26.8%	34.2%	33.9%		34.1			IV
7	「住宅や住宅地」全体についての満足度は?	8.3%	49.5%	31.3%	10.9%	59.9	51.3	-8.6	II	II

平成27年度のアンケート調査における設問項目		満足	やや満足	やや不満	不満	ニセコ町全体の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
(7)	交通網に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 町道や道道など生活道路の整備状況について	13.6%	50.2%	25.5%	10.8%	59.8	55.1	-4.7	II	II
	2 歩いて楽しくなるような道づくりが行われているかについて	7.2%	26.1%	41.5%	25.2%	41.4	38.1	-3.3	III	III
	3 周辺の道は歩道などの安全性が確保されているかについて	8.0%	32.2%	35.2%	24.6%	44.5	40.9	-3.6	III	III
	4 デマンドバス「にこっとBUS」の運行状況などについて	10.3%	37.2%	28.6%	24.0%	47.7	44.2	-3.5	IV	IV
	5 高速道路や新幹線などの整備促進の取組について	12.8%	40.2%	26.0%	21.0%	34.7	47.9	13.2	IV	IV
	6 市街地街並みの住みやすさや使いやすさについて	7.2%	43.0%	32.4%	17.4%		46.2			III
	7 災害時における町内避難経路について	8.4%	38.1%	34.7%	18.8%		45.0			IV
	8 「交通網」全体についての満足度は?	5.5%	34.3%	38.6%	21.6%	43.0	40.9	-2.1	IV	III
(8)	防災・防犯に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 「原子力防災計画」の周知について	7.1%	34.5%	33.7%	24.7%		41.0			III
	2 広域の消防体制・救急体制の充実について	14.9%	54.9%	23.0%	7.1%		58.8			II
	3 町民参加の避難訓練について	7.0%	33.2%	44.6%	15.2%		43.6			IV
	4 防災拠点としての役場庁舎の整備状況について	4.3%	25.0%	42.4%	28.3%		34.8			III
	5 防災備品の定期的な点検の状況について	9.6%	37.5%	39.4%	13.5%		47.4			IV
	6 消費者詐欺等から消費者が自らを守る仕組みについて	6.4%	35.2%	40.9%	17.4%		43.2			IV
	7 「防災・防犯」全体についての満足度は?	7.0%	36.1%	42.9%	14.0%		45.0			
(9)	医療・健康に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 長く元気で暮らせるための健康づくりの仕組みについて	7.4%	54.2%	26.7%	11.7%	51.1	52.0	0.9	II	II
	2 健康的な食習慣と、自分にあった運動で健康を作ることにについて	9.0%	58.1%	25.0%	7.9%		55.6			II
	3 健康診断の受診率を向上させることについて	10.5%	56.2%	23.2%	10.1%		55.3			II
	4 健康保険、介護保険、医療機関等の広域的取組について	9.0%	43.1%	29.7%	18.2%		47.2			IV
	5 「医療・健康」全体についての満足度は?	7.1%	42.9%	33.1%	16.9%		46.4			III
(10)	高齢者福祉に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 高齢者を地域で助け合う身近な見守り、介護、福祉について	7.8%	42.2%	35.8%	14.2%	46.2	47.4	1.2	IV	IV
	2 高齢者が外出し社会参加する機会について	6.9%	44.4%	37.5%	11.1%	50.6	48.7	-1.9	II	III
	3 段差などで歩きにくい状態が解消されているかについて	2.7%	33.2%	43.6%	20.4%	39.4	39.0	-0.4	III	III
	4 災害や犯罪などから高齢者を守る仕組みができていくかについて	2.0%	21.2%	48.8%	27.9%	36.3	32.1	-4.2	IV	IV
	5 「高齢者福祉」全体についての満足度は?	5.2%	36.4%	40.8%	17.5%	42.8	42.7	-0.1	III	IV
(11)	子育て支援に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 幼児センター、子育て支援センターなどの運営について	12.5%	58.9%	21.6%	7.0%	59.7	58.5	-1.2	I	II
	2 子育て支援に関わる多様な人々のネットワークについて	7.6%	54.4%	30.0%	8.0%		53.4			I
	3 子育てをしながら安心して働くことができる職場環境について	6.8%	32.7%	39.9%	20.5%	44.0	41.6	-2.4	IV	III
	4 子育ての悩みを一人で抱えずに相談や交流できる仕組みについて	5.0%	45.0%	37.9%	12.1%	46.3	47.2	0.9	III	IV
	5 家庭において家族が協力し合う男女共同の促進について	7.1%	41.8%	35.1%	15.9%	49.0	46.3	-2.7	IV	IV
	6 「子育て支援」全体についての満足度は?	6.2%	45.8%	35.5%	12.5%	48.2	48.2	0.0	IV	IV
(12)	障がい者福祉に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 相互扶助の精神により支え助け合い、共に暮らす地域福祉活動について	4.9%	44.0%	38.7%	12.3%		46.8			III
	2 障がい者への、教育支援、就労支援、保健・医療・リハビリ支援について	5.7%	35.2%	39.8%	19.3%		42.1			IV
	3 障がい者が自立し充実した生活を送るための、相談支援体制について	5.7%	31.0%	45.0%	18.3%		41.0			IV
	4 ユニバーサルデザイン(※注)による安全安心な生活環境の実現について	6.3%	31.1%	41.0%	21.6%		40.3			IV
	5 「障がい者福祉」全体についての満足度は?	5.4%	35.3%	39.1%	20.2%		41.6			III
(13)	観光に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 農業など他産業と連携する観光産業が活性化しているかについて	10.3%	46.7%	29.5%	13.5%	44.5	50.9	6.4	III	II
	2 魅力的なイベント等による新たな観光需要の掘り起こしについて	8.0%	40.0%	36.6%	15.5%	43.1	46.4	3.3	III	IV
	3 MICE(会議、視察、大会、展示会)の誘致と開催について	5.0%	31.8%	45.5%	17.7%		41.0			III
	4 周辺町村との広域的な観光振興が行われているかについて	5.1%	37.6%	41.5%	15.8%	40.4	43.6	3.2	III	III
	5 国内や海外からの観光客に対する住民のおもてなしについて	7.2%	45.6%	33.9%	13.2%	43.3	48.5	5.2	IV	II
	6 大規模なリゾート観光開発の進め方について	4.5%	30.2%	38.6%	26.6%	31.6	37.2	5.6	IV	IV
	7 リゾート観光エリアと市街地商店街の経済循環について	2.5%	17.9%	44.1%	35.5%		28.9			IV
	8 「観光」全体についての満足度は?	5.5%	37.3%	43.5%	13.8%	42.0	44.4	2.4	IV	IV

平成27年度のアンケート調査における設問項目		満足	やや満足	やや不満	不満	ニセコ町全体の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		1	2	3	4			増減	H22	H27
(14)	農業に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 地元住民消費者や他産業と連携する新たな農業の展開について	5.4%	34.5%	49.0%	11.1%	41.8	44.3	2.5	Ⅲ	Ⅲ
	2 都市住民との交流を深めるグリーンツーリズムの現状について	5.9%	29.8%	51.3%	13.0%		42.5			Ⅲ
	3 担い手や後継者の育成など、農業の持続性について	4.2%	29.4%	44.4%	21.9%	33.5	38.3	4.8	Ⅲ	Ⅲ
	4 環境と調和したクリーン農業によるブランド化の展開について	5.9%	39.4%	37.0%	17.7%	44.3	44.1	-0.2	Ⅳ	Ⅳ
	5 ゆとりと潤いのある、ニセコらしい農村景観について	9.7%	45.5%	32.6%	12.1%	48.1	50.6	2.5	Ⅲ	Ⅱ
	6 農業への支援システムづくりについて	5.7%	27.5%	47.5%	19.3%		39.5			Ⅳ
	7 共同経営体や農作業の受託をする組織をつくり育てることについて	5.0%	24.8%	52.3%	17.9%		38.7			Ⅳ
	8 農地の保全状態について	7.2%	28.7%	43.8%	20.4%	32.8	40.5	7.7	Ⅳ	Ⅳ
	9 地域合意に基づく農村地区の集落再編について	6.1%	35.5%	44.3%	14.0%		44.2			Ⅲ
	10 生産性の高い、強い農業が行われているかについて	5.6%	27.6%	44.0%	22.8%		38.3			Ⅳ
	11 「農業」全体についての満足度は?	4.4%	32.9%	48.0%	14.7%	37.5	41.9	4.4	Ⅳ	Ⅲ
(15)	林業に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 林業労働者の確保や林業経営の状況について	3.9%	26.6%	49.2%	20.3%		37.7			Ⅲ
	2 計画的な森林づくりの状況について	4.9%	29.6%	40.7%	24.7%		37.9			Ⅳ
	3 「林業」全体についての満足度は?	4.4%	26.6%	46.8%	22.2%		37.4			Ⅳ
(16)	商工業に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 観光や農業等他分野と連携した魅力ある地元産品づくりについて	7.1%	33.0%	36.9%	23.0%	38.6	41.0	2.4	Ⅲ	Ⅲ
	2 綺麗街道など市街地の商店街について	3.6%	25.3%	39.5%	31.5%	35.5	33.4	-2.1	Ⅳ	Ⅳ
	3 道の駅ビュープラザのショッピングエリアについて	15.0%	45.7%	26.8%	12.5%	55.5	54.0	-1.5	Ⅱ	Ⅱ
	4 観光産業との経済循環について	5.6%	35.1%	41.2%	18.1%		42.3			Ⅲ
	5 生活に必要な商品やサービスを提供する商店が揃っているかについて	1.7%	9.1%	38.4%	50.7%		20.5			Ⅲ
	6 小規模であっても多様なビジネスの起業・創業について	3.4%	23.7%	41.2%	31.7%		32.6			Ⅳ
	7 「商工業」全体についての満足度は?	2.7%	22.7%	44.1%	30.5%	37.7	32.3	-5.4	Ⅳ	Ⅲ
(17)	情報共有に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 住民の暮らしに役立つ情報共有の仕組みについて	8.9%	44.2%	32.7%	14.2%	39.7	48.9	9.2	Ⅲ	Ⅳ
	2 行政情報の分かりやすさや迅速性など、情報の内容の質の向上について	6.9%	36.4%	39.5%	17.2%	40.6	44.0	3.4	Ⅳ	Ⅲ
	3 光通信網など情報を活用しやすい通信環境の整備について	13.4%	45.8%	26.2%	14.7%	50.7	52.2	1.5	Ⅰ	Ⅰ
	4 「情報共有」全体についての満足度は?	7.5%	41.0%	36.5%	15.0%	41.3	46.6	5.3		Ⅲ
(18)	住民参加に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 住民参加の仕組みが機能しているかについて	7.6%	43.0%	35.2%	14.3%	49.9	47.5	-2.4	Ⅲ	Ⅲ
	2 住民自身によるまちづくりの活動について	6.3%	38.9%	38.6%	16.1%	47.1	44.8	-2.3	Ⅲ	Ⅲ
	3 町内会など地区を良くする活動について	8.4%	43.6%	34.7%	13.3%	47.1	48.6	1.5	Ⅲ	Ⅳ
	4 「住民参加」全体についての満足度は?	6.7%	42.3%	37.3%	13.6%	50.2	47.0	-3.2	Ⅱ	Ⅲ
(19)	行財政に関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 住民に対して迅速で柔軟な対応ができる行政運営について	7.0%	39.3%	33.5%	20.1%	49.3	44.0	-5.3	Ⅲ	Ⅲ
	2 役場の行政事務に町民にも見えやすい透明性があるかについて	6.4%	39.3%	32.9%	21.3%	48.0	43.2	-4.8	Ⅲ	Ⅲ
	3 研修等により役場職員の能力が向上しているかについて	5.9%	34.3%	32.7%	27.1%	44.2	39.4	-4.8	Ⅲ	Ⅲ
	4 町の財政の持続可能な運営について	4.6%	35.0%	30.7%	29.7%	46.8	37.8	-9.0	Ⅲ	Ⅳ
	5 町の財政状況に関する透明性や分かりやすさについて	7.9%	41.5%	26.7%	23.8%		44.2			Ⅲ
	6 町の状況から見て、住民の負担と受益はバランスが取れているか	4.5%	31.0%	33.6%	31.0%	44.7	36.0	-8.7	Ⅳ	Ⅳ
	7 「行財政」全体についての満足度は?	4.9%	36.9%	35.6%	22.6%	45.9	41.0	-4.9	Ⅳ	Ⅲ
(20)	連携によるまちづくりに関する次の項目について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	1 ニセコを支え応援する多様な人々との連携について	7.7%	53.3%	30.7%	8.4%	51.3	53.0	1.7	Ⅱ	Ⅰ
	2 羊蹄山麓や後志管内などにおける、広域行政の推進について	7.0%	50.2%	31.7%	11.1%	46.2	50.6	4.4	Ⅳ	Ⅱ
	3 国際交流活動を支える仕組みづくりについて	11.9%	54.1%	23.3%	10.7%	45.3	55.3	10.0	Ⅳ	Ⅱ
	4 「連携によるまちづくり」全体についての満足度は?	6.6%	50.8%	30.6%	12.0%	47.2	50.2	3.0	Ⅳ	Ⅱ
(21)	情報共有と住民参加を基軸とする「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体についての満足度は?	7.8%	52.8%	28.0%	11.4%	52.7	51.9	-0.8		
(22)	この4年間(H24~H27)のニセコ町のまちづくり全体について	1	2	3	4	H22	H27	増減	H22	H27
	この4年間のまちづくり全体についての満足度は?	7.6%	51.0%	29.0%	12.4%	50.5	50.8	0.4		

担当課	平成27年度のアンケート調査における設問項目	満足度				町民アンケートによる満足度			【参考値】計画策定時(H22)に各担当課が設定した「目指そう値」			4年後の【目指そう値】	8年後の【目指そう値】	影響度の類型の変化(※右注)	注: 重要度の類型(I~IV)の意味合い		
		1	2	3	4	H22	H27	増減	H27	H31	H35					H31	H35
(16)	商工業に関する次の項目について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
観光	1 観光や農業等他分野と連携した魅力ある地元産品づくりについて	7.1%	33.0%	36.9%	23.0%	38.6	41.0	2.4					60	70	III	III	
観光	2 綺羅街道など市街地の商店街について	3.6%	25.3%	39.5%	31.5%	35.5	33.4	-2.1	60	80	90		60	70	IV	IV	
観光	3 道の駅ビュースタジアのショッピングエリアについて	15.0%	45.7%	26.8%	12.5%	55.5	54.0	-1.5	75	80	90		60	70	II	II	
観光	4 観光産業との経済循環について	5.6%	35.1%	41.2%	18.1%		42.3						60	70	III		
観光	5 生活に必要な商品やサービスを提供する商店が揃っているかについて	1.7%	9.1%	38.4%	50.7%		20.5						40	50	III		
観光	6 小規模であっても多様なビジネスの起業・創業について	3.4%	23.7%	41.2%	31.7%		32.6						60	70	IV		
	7 「商工業」全体についての満足度は?	2.7%	22.7%	44.1%	30.5%	37.7	32.3	-5.4									
(17)	情報共有に関する次の項目について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	<p>この重要度の類型のうち、IVに最も強い関心を持って、その施策項目の住民満足度を向上させるよう「目指そう値」を設定し、その実現を図ることが、総合計画による住民満足度の向上に、効果的に結びつくことが期待できる。</p>
企画	1 住民の暮らしに役立つ情報共有の仕組みについて	8.9%	44.2%	32.7%	14.2%	39.7	48.9	9.2	50	60	70		60	70	III	IV	
企画	2 行政情報の分かりやすさや迅速性など、情報の内容の質の向上について	6.9%	36.4%	39.5%	17.2%	40.6	44.0	3.4	50	60	70		60	70	IV	III	
企画	3 光通信網など情報を活用しやすい通信環境の整備について	13.4%	45.8%	26.2%	14.7%	50.7	52.2	1.5					55	55	I	I	
	4 「情報共有」全体についての満足度は?	7.5%	41.0%	36.5%	15.0%	41.3	46.6	5.3									
(18)	住民参加に関する次の項目について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
企画	1 住民参加の仕組みが機能しているかについて	7.6%	43.0%	35.2%	14.3%	49.9	47.5	-2.4	70	80	90		60	75	III	III	
企画	2 住民自身によるまちづくりの活動について	6.3%	38.9%	38.6%	16.1%	47.1	44.8	-2.3					60	75	III	III	
町民生活	3 町内会など地区を良くする活動について	8.4%	43.6%	34.7%	13.3%	47.1	48.6	1.5					60	70	III	IV	
	4 「住民参加」全体についての満足度は?	6.7%	42.3%	37.3%	13.6%	50.2	47.0	-3.2									
(19)	行財政に関する次の項目について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
町民生活	1 住民に対して迅速で柔軟な対応ができる行政運営について	7.0%	39.3%	33.5%	20.1%	49.3	44.0	-5.3	60	70	80		60	70	III	III	
企画	2 役場の行政事務に町民にも見えやすい透明性があるかについて	6.4%	39.3%	32.9%	21.3%	48.0	43.2	-4.8	60	70	80		60	70	III	III	
総務	3 研修等により役場職員の能力が向上しているかについて	5.9%	34.3%	32.7%	27.1%	44.2	39.4	-4.8	60	70	80		45	55	III	III	
総務	4 町の財政の持続可能な運営について	4.6%	35.0%	30.7%	29.7%	46.8	37.8	-9.0	60	70	80		45	55	III	IV	
総務	5 町の財政状況に関する透明性や分かりやすさについて	7.9%	41.5%	26.7%	23.8%		44.2						55	65	III		
総務	6 町の状況から見て、住民の負担と受益はバランスが取れているか	4.5%	31.0%	33.6%	31.0%	44.7	36.0	-8.7	60	70	80		45	55	IV	IV	
	7 「行財政」全体についての満足度は?	4.9%	36.9%	35.6%	22.6%	45.9	41.0	-4.9									
(20)	連携によるまちづくりに関する次の項目について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
企画	1 ニセコを支え応援する多様な人々の連携について	7.7%	53.3%	30.7%	8.4%	51.3	53.0	1.7					65	70	II		
企画	2 羊蹄山麓や後志管内などにおける、広域行政の推進について	7.0%	50.2%	31.7%	11.1%	46.2	50.6	4.4	60	70	80		55	60	IV		
企画	3 国際交流活動を支える仕組みづくりについて	11.9%	54.1%	23.3%	10.7%	45.3	55.3	10.0					65	70	IV		
	4 「連携によるまちづくり」全体についての満足度は?	6.6%	50.8%	30.6%	12.0%	47.2	50.2	3.0									
(21)	情報共有と住民参加を基軸とする「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
	「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体についての満足度は?	7.8%	52.8%	28.0%	11.4%	52.7	51.9	-0.8									
(22)	この4年間(H24~H27)のニセコ町のまちづくり全体について					H22	H27	増減	H27	H31	H35	改訂	H31	H35	H22	H27	
	この4年間のまちづくり全体についての満足度は?	7.6%	51.0%	29.0%	12.4%	50.5	50.8	0.4									



資料 2-4. 第 1 次見直しにおける論点から (※参照 : 8 ページ)

1 学校教育に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目	ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
(1) 子どもの教育に関する次の各項目について																					
1 情緒豊かで礼儀正しい子どもの教育について	52.3	55.8	3.5	49.3	62.0	12.7	52.7	54.2	1.4	52.5	56.3	3.8	54.3	65.2	10.9	50.8	42.9	-7.9	II	I	
2 学習意欲があり、自分で考えることができる子供の教育について	47.4	49.0	1.6	47.6	52.1	4.5	50.3	47.1	-3.2	45.8	50.3	4.5	46.8	54.5	7.7	39.1	-8.9	IV	IV		
3 ふるさとニセコを愛する子供の教育について	51.3	56.0	4.7	53.0	58.7	5.7	2	56.1	1.5	49.8	57.2	7.4	56.5	64.2	7.6	44.0	-5.6	II	II		
4 国際化や情報化に対応できる子供の教育について	41.3	51.5	10.2	41.5	50.1	8.6	40.8	53.4	12.6	41.6	53.2	11.6	47.0	50.7	3.7	43.2	45.3	2.0	III	II	
5 幼児センターから高等学校まで連携して、教育や子育てを向上させているか	45.0	44.4	-0.6	46.3	40.0	-6.4	46.1	44.1	-2.0	44.3	48.5	4.2	47.4	47.3	-0.2	3	33.0	-13.9	IV	IV	
6 学校教育と地域住民は連携して教育環境の充実を図っているか	46.5	46.2	-0.3	47.3	44.0	-3.3	49.3	46.0	-3.3	42.9	46.2	3.3	44.0	54.1	10.1	45.9	42.4	-3.5	IV	IV	
7 「子どもの教育」全体についての満足度は?	45.7	46.9	1.2	45.1	43.4	-1.7	44.9	47.7	2.9	44.9	49.1	4.2	47.0	51.9	4.9	46.2	44.0	-2.1	IV	IV	

論点 1 : 子供の教育理念における、近藤地区と南西地区の評価の違い

子供の教育理念 3 項目に関する評価の傾向は、両地区で顕著な相違を見せている。その背景は何か。想定される要因は、近藤小学校の存在であり、子供の教育成果を地域住民が間近に観察できる環境にあることであろう。南西地区では、平成 18 年 3 月の宮田小学校の廃校により、地域が学校教育の成果を目の当たりにする機会が無くなった。このような状況変化が、どのようなメカニズムによりこのような変化をもたらしたのか、その仮定に基づいた分析が求められる。なお、この視点については、別の分析視点も提示されている (下記参照)。

● 加藤課長 (学校教育課) からのヒアリング (12/8)

- ・ 宮田小学校の廃校が要因になった結果とは思えない。すでに十分期間が経過しており、このような形での影響は少ないと思う。
- ・ 具体的な要因と言うより、市街地に集中している教育施設までの距離の遠さ、交通機関の不便さが、漠然とした不満感の背景になっているのではないかと。生活全体、まちづくり全体への不満があるのかもしれない。
- ・ また、南西地区は、宮田小学校の廃校以降、ニセコ小学校の学区となったことから、子供だけでなく地区住民もスクールバスを一定の条件の下で利用できることになったが、これを知らない住民もいる。デマンドバス利用の不便さとあわせて、これらも、満足度評価を低下させた間接的な要因となっているかもしれない。

論点 2 : 国際化・情報化教育の進展

全地区ともおしなべて、子どもたちの教育における国際化や情報化については、評価が有意に高まっている。全町的なこの方面の教育方針が、形になって成果をあげているといえる。

論点 3 : 学校教育におけるさまざまな連携

学校教育におけるさまざまな連携が、近藤地区と南西地区では大きく相違している。これも、論点 1 と同様の背景が考えられる。抽象論では全町同じでも、可視化できる対象 (地域の学校

とか)の有無によって、結果に相違があることが想定される事例の一つである。全町的に評価がわずかに低下しているのは、その反映と考えることもできそうだ。

● 加藤課長（学校教育課）からのヒアリング（12/8）

- ・ 総合計画の施策体系に基づいて、今年度は、教育における「連携」として、二つの政策的柱を構えている。

それは、総合計画策定後に作成した「教育振興基本計画」の中に据えた、二つの政策である。ひとつは、「連携一貫教育」。もうひとつは「地域と連携するコミュニティ・スクール」である。これらを、総合計画の見直しにおいて、施策として表現することについて、検討してほしい。

● 佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 地域の学校は、コミュニティの中核的存在。それが無くなった喪失感、地区にとっては無視できないほど深いものだと思う。

2 社会教育に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)				
(2)		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27			
1	「あそぶっく」が地域住民の学びの場になっているかについて		64.8			71.2			67.5			64.0			69.4			63.4			II			
2	「あそぶっく」以外の、学びの場や機会について	44.0	41.1	-2.9	40.4	40.5	0.1	45.1	39.7	-5.3	44.8	44.0	-0.8	47.3	41.6	-5.7	42.4	38.9	-3.4			IV	III	
3	地域住民の学習活動のリーダーが育っているかについて	36.1	35.1	-1.0	29.4	36.6	7.2	4	36.6	2.5	39.2	35.7	-3.5	37.5	40.6	3.0	31.8	29.6	-2.2			III	IV	
4	地域において青少年が健全に育っていると思うか	45.4	55.1	9.7	41.5	58.5	16.9	43.7	54.9	11.2	46.6	54.6	8.0	51.0	55.4	4.4	45.2	54.0	8.8			I	II	
5	町民が利用するスポーツ施設について	51.3	52.3	1.0	48.0	52.7	4.7	50.3	54.0	3.7	51.5	53.1	1.6	51.2	52.2	1.0	51.5	55.6	4.1			I	I	
6	スポーツ合宿の誘致が可能な施設について		34.8			38.2			35.3			33.3			38.2			38.8					IV	
7	「地域住民の学習機会」全体についての満足度は？	44.8	46.1	1.3	41.3	44.3	3.0	41.1	49.3	8.2	46.7	46.5	-0.1	52.7	49.1	-3.6	41.9	48.4	6.5			IV	III	

論点4：地域における青少年の健全な成長を促した政策

ほぼ全地区において、地域における青少年の健全な成長についての評価が、大幅に向上している。この背景にあるのは何か。地域に根ざした具体的な日常的活動の成果なのか、あるいは、全町的な行事や制度に基づく全般的な影響なのか。

そのことを考察する上で気になるのは、影響度の類型の変化である。IVからIIへの変化は、評価の向上と影響度の低下を意味している。

この関連の政策を推し進めた結果、評価が向上したことで、ある程度、優先課題としての役割を終えたとも言える。そのような政策とは、どのようなものだったのだろうか？

● 阿部課長、樋口係長（町民学習課）からのヒアリング（12/9）

- ・ この5年間で、評価が向上した背景や原因としてこの事業を行ったからというものはない。長年継続してきた事業の総合的な成果だと思う。高い満足度の背景を強いて推測すると、町民が日常接するこどもたちの活発なあいさつなど、礼儀の正しさは、日々の空気を明るくしている。そのような日常感覚が、この設問における満足度の高さに結びついているのではないかと。

- ・ 設問1の「地域住民の学びの場としてのあそぶっく」についての評価が、町内全域で高いことに、関係者は勇気づけられる。反面、設問2の、「それ以外の学びの場」の評価が低いことに、大人の学ぶ場所がないなど、ニセコ町の「学びの場」の全般的な弱さが見られる。同様に、設問3の「学習活動のリーダー」についての低い満足度も、課題視すべきだろう。重要度の類型がIVであり、かつ、ニセコ町には、そのような人材が潜在しているだけに残念。

3 地域の歴史文化に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目	ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
(3) 地域の歴史文化に関する次の各項目について																					
1 有島記念館の展示やイベントについて	57.5	59.6	2.1	50.9	65.4	14.5	60.6	62.4	1.7	57.6	59.9	2.4	61.1	56.2	-4.9	57.9	55.4	-2.5	II	II	
2 有島武郎や有島農場の歴史、文化、景観などの継承について	57.9	59.3	1.4	53.3	63.1	9.8	5	61.1	3.1	58.1	60.5	2.4	61.3	60.7	-0.7	60.3	56.2	-4.0	II	II	
3 先人の優れた知恵や経験などの文化遺産を発掘・保全する活動について	49.3	50.5	1.2	44.4	56.5	12.1	50.9	53.1	2.2	50.3	52.1	1.7	45.3	47.2	1.9	48.1	45.1	-3.0	IV	II	
4 地域の歴史文化を活用した様々なイベントや事業の実施について		47.0			50.6			52.0			47.1			45.9			44.6			IV	
5 町民の文化活動が活発に行われているかについて	50.4	51.2	0.8	6	50.0	3.0	49.0	53.3	4.3	51.7	53.8	2.1	54.9	48.6	-6.2	47.9	42.8	-5.1	II	I	
6 町民が文化活動を行う施設について	46.1	51.6	5.5	42.2	51.4	9.2	43.4	52.5	9.1	45.6	54.1	8.5	49.1	52.6	3.4	49.8	45.5	-4.3	III	II	
7 町民の文化活動に対する行政の支援について	46.6	49.1	2.5	38.9	47.8	8.9	46.2	50.7	4.5	47.8	53.5	5.7	46.3	45.9	-0.5	49.3	41.9	-7.3	IV	IV	
8 「地域の歴史文化」全体についての満足度は？	46.6	46.2	-0.4	40.6	44.1	3.5	48.0	49.1	1.0	46.7	48.6	1.9	50.7	50.6	-0.1	49.3	38.0	-11.4	IV	III	

論点5：川北地区の高い評価の背景

川北地区では、地域の歴史文化に関する評価が、おしなべて大きく向上している。その背景は何か？リゾートを抱えたこの地域では、この数年で、特に海外からのリゾート客が増え、彼らの関心が、スキーだけではなく、より幅広く地域の生活文化や歴史などに対象が広がっていることに刺激を受けて、地元でも地域の歴史や文化に関する意識が高まっていることが伺える。

● 阿部課長、樋口係長（町民学習課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 有島記念館の展示（絵画関連が多い）も催し物（コンサートが多い）も、来館者・参加者の多くは、川北地区の人だ。ニセコでの文化的企画に敏感に反応する人たちで、年齢的には、子育てや就業で忙しい現役世代よりも、高齢者や移住者、ロングステイの客を連れてくるペンションオーナーなどをよく見かける。町民センターでの文化活動とは異なる利用構造が見られ、有島記念館の利用者増加の背景を成している。

論点6：文化活動施設の地域間格差が拡大

町民センターのリニューアルなどが要因と思われるが、町民が文化活動を行う施設については、川北、有島、市街地区で大きく向上している反面、南西地区では評価の低下傾向が見られる。町民センターに対する距離感が、この背景として想定されるだろうか？

これは、実際上の不便さということ以上に、地域格差意識が根付き始めていることを物語っているのだろうか？ 「町民の文化活動に対する行政の支援」にしても、地域間格差が大きく見られる政策領域ではないと思われるが、南西地区で顕著な評価の落ち込みが見られる。

また、この項目については、影響度の類型がIIIからIIへと変化し、評価は向上しているが、影

響度は、引き続き低いままである。少しずつ、改善結果が評価されていると受けとめられる。

● 阿部課長、樋口係長（町民学習課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 「地域の歴史や文化全体」についての地区別の満足度を見ても、南西地区の満足度の落ち込みが大きい。やはり、交通の不便さなど、距離感の問題が影を落としているのだろう。

4 環境の保全・創造に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(4)	環境の保全・創造に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
		1	環境への配慮を評価する仕組みについて	64.7	59.9	-4.8	67.1	57.5	-9.6	60.8	-1.7	64.6	61.8	-2.8	62.1	59.7	-2.3	66.6	58.1	-8.5	II
2	ごみの分別やリサイクルの仕組みなどについて	58.3	63.0	4.7	46.2	55.7	9.4	58.7	67.0	8.3	64.0	70.1	6.1	51.9	58.8	7.0	56.8	54.0	-2.8	II	II
3	公共下水道や合併処理浄化槽など排水処理による水環境の保全について	64.0			62.4			64.9			67.0			63.0			59.0				II
4	水源や水源地周辺の保全について	74.0			75.8			76.5			75.1			69.0			69.1				II
5	安全・安心でおいしい水の供給について	45.4	56.0	10.6	37.8	50.0	12.2	44.6	60.5	15.9	51.4	57.8	6.4	38.8	54.8	16.1	41.7	54.2	12.5	III	II
6	市街地やリゾート地、農地における河川環境の保全について	42.5	52.7	10.2	37.4	48.0	10.6	42.1	58.8	16.7	44.4	55.0	10.7	40.1	54.3	14.2	43.3	50.6	7.2	IV	II
7	市街地やリゾート地、農地における森林など緑環境の保全について	33.1	39.7	6.6	31.0	36.9	5.9	31.1	43.4	12.3	36.0	41.0	5.1	24.8	43.2	18.4	32.6	36.2	3.6	IV	III
8	ニセコ町の土地利用が適切に行われているかについて	45.4			42.0			47.0			50.7			47.4			36.0				IV
9	標準市計画区域のエリアの現状について	44.0	52.7	8.7	41.1	46.3	5.2	42.3	57.4	15.1	45.5	56.2	10.7	44.7	54.8	10.0	46.0	46.3	0.3	III	II
10	「環境の保全・創造」全体についての満足度は?																				

論点7： 公共下水道や合併処理浄化槽の普及拡大に関する評価の高まり

南西地区以外の全地区で、公共下水道や合併処理浄化槽に対する評価が高まった。それら設備の普及状況が地域ごとにどのように推移したのか？唯一評価を低下させている南西地区ではどうなのか？導入普及の地域間格差はなかったのか？しかし、統計的には、南西地区においても、必ずしも評価自体が低いとは言えず、むしろ、低下傾向にあることをどのように受け止めるか、という視点からの分析が求められる。

● 石山課長（上下水道課）からのヒアリング（12/7）

- ・ 南西地区において、西富集落は農業集落排水処理だが、それ以外の集落では合併浄化槽を各世帯が導入しているものの、高齢者宅などで未導入の世帯もある。また、南西地区は、概して、水道の導入も遅く、従来から自前で井戸を使用していたなど、10年ほど前に水道が引かれた地域もある。そんな地域特性が、評価の低下を招いていることも考えられる。しかし、直接そのことが原因というには、年月もだいぶ経ってタイムラグを感じるの、それらを含んだ、地域全体の空気が反映しているということかもしれない。（はっきり特定はできない）
- ・ 合併浄化槽の普及率は増えているが、地区別導入率については、役場では数値的なことは把握していない。
- ・ 合併浄化槽については、町民生活課の所管になったので、そちらで確認すること。
- ・ 水道の未普及地区（モイワ地区の一部）への水道敷設については、補助金を探すなど整備に向けて検討をしている。

● 横山課長、馬淵係長（町民生活課）からのヒアリング（12/10）

- ・ 合併処理浄化槽の未設置世帯に対する対応については、個別の事情に応じた柔軟な対応が求められるので、今後は、町民生活課と建設課が共同で検討し対処していく。
- ・ 合併処理浄化槽の大きさは、用途に応じて、建物の面積等により決まっているので、福井地区コミュニティセンターの合併処理浄化槽の維持管理費用が高くなり負担になっていることがあると思われ、それも、評価に影響しているかもしれない。
- ・ 別荘所有者は、合併処理浄化槽への補助対象外である。

論点 8： 河川環境、緑環境、土地利用に関する、全町的な評価の高まり

ニセコ町の自然環境である河川、緑、土地利用に関する評価は、例外なく、全ての地区で評価が高まっている。環境政策に重きを成してきたこの数年来の政策に対する評価が見られる、と受けとめることは可能だろう。結果として、全体として、影響度も低下している。切迫度が薄らいでいる、とも言える。

● 山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

- ・ 「河川環境の保全」と「緑環境の保全」について、満足度が高まり、やや高い水準になったのは、納得できる。結果として、以前のような危機感が後退し、影響度の類型も、ⅣなどからⅡになったのだろう。
- ・ しかし、「土地利用が適切に行われているか」については、同様に満足度が高まったとは言え、依然、満足度の水準は低いままなので、同じ論点として括ることはできないだろう。これは、「準都市計画区域のエリアの現状」に関する評価構造と一体的に考察する必要がある、まだまだ十分に満足できる状況ではないということを示している。「土地利用」という時に、住民が主に想定しているのは、外国人が土地を買い占めてリゾート的な利用のされ方が進むことへの不安感が背景にあると思われる。川北地区などを中心に、実際に、住宅用地として外国人が購入して土地の利用が進み、住民同士としての交流が始まり、互いの理解が進むと、それまでの漠然とした不安が一部緩和され、満足度の向上となっているのではないか。しかし、まだ、その不安感は十分に解消されず、リゾート施設としての土地の購入や土地利用の改変が相変わらず進展しているので、この点については、準都市計画区域の影響度の類型がⅣとなっているのだろう。
- ・ この論点については、今後も、土地利用の改変を含む土地の売買や開発について、町としてのスタンスをより明確にしていく必要がある。準都市計画や景観条例があるからといった、制度面だけに依存せずに、その活用の段階で、ニセコ町の土地利用の将来イメージについて、町民も含めた議論や検討の場が求められるのではないか。
- ・ 観光（13-6）とも、密接に関連する論点だろう。

論点 9： 準都市計画区域のエリアについての危機感は強い

準都市計画区域のエリアの現状については、評価が低く影響度も強い。その背景や理由などを

探り、早急な対応が求められるだろう。

● 横山課長、馬淵係長（町民生活課）からのヒアリング（12/10）

- ・ ごみの分別やリサイクルについては、満足度は全体としてやや高いものの、前回よりは低下している。従来からの住民と移住者では、ニセコ町の分別に対する評価が異なっていることが想定されるので、的確な分析のためには、クロス分析が必要だろう。
- ・ 役場裏の資源保管庫には、使用方法の周知不足もあるが、資源ごみ以外の有料ごみも持ち込まれており、どのように運営していくべきか、悩ましい課題になっている。

5 再生エネルギーに関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
(5)	地域における再生エネルギーの活用と省エネの状況について																					
1	再生可能エネルギー(太陽光、水力等)を自給する仕組みづくりについて		33.6			29.9			34.5			35.8			31.2			29.5			III	
2	暮らしや経済活動における二酸化炭素削減の取組について	51.9	41.8	-10.1	52.5	41.6	-10.9	52.9	42.9	-9.9	51.7	44.9	-6.8	48.4	41.0	-7.4	52.6	35.4	-17.2			II IV
3	地域の実状に見合った多様な再生可能エネルギーの生産について		36.6			28.1			10 37.2			40.4			37.7			32.0			III	
4	地域交通における省エネルギーの推進について		40.7			34.1			42.1			45.6			38.5			33.1			III	
5	エネルギー等環境に関する地域課題を解決するビジネスの起業について		33.7			26.7			32.3			38.9			30.5			27.0			IV	
6	「地域における再生エネルギーと省エネ活動」全体についての満足度は？		37.4			37.9			33.1			43.5			31.8			33.1			IV	

論点 10：二酸化炭素削減の取り組みに対して、全町的に危機感が高まっている

全町的に、二酸化炭素削減の取り組みに対する評価が大きく低下している。また、影響度の類型

も、ⅡからⅣに激変しており、町民が、緊急課題として危機感を強めていることが伺える。この危機感の背景として、ニセコ町が「環境モデル都市」を目指す政策を本格化させ、その中で、低炭素なまちづくりについて町民に様々な形で情報の共有を図っていることから、町民の中に、急速にその問題意識が定着してきたことが想定される。地球温暖化に関する実態の認識からもたらされる危機感が、今回のアンケート結果に如実に反映した結果と受けとめられる。

● 佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 省エネ型の機器導入が良い事とはわかっているが、世帯や事業者に導入の余裕がないことが、評価の低さに影響しているのではないかと。

● 山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

- ・ 満足度の落ち込みの背景として考えたいのは、町が環境モデル都市構想などで掲げているエネルギー政策において、実際に何を指し進めようとしているのか、町民に見えていないことがあるのではないだろうか。それらの動きを町民に見えるようにする情報共有の取り組みが不十分だということだろう。そのためには、環境モデル都市構想のアクションプランを実現していく取り組みを、可視化する必要がある。ニセコ町アクションプランは、観光分野、運輸分野、草の根の分野を軸に取り組みを進めている。観光の分野では温泉熱の利用をモデル的に進めて、拡げていきたい。
- ・ 4-1に掲げた「環境への配慮を評価する仕組み」が求められている。

6 住宅や住宅地に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
(6)	住宅や住宅地に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
1	現在住んでいる居住地周辺の景観について	67.1	66.9	-0.2	72.6	70.8	-1.8	61.6	66.6	5.0	63.6	67.2	3.6	68.9	66.9	-1.9	72.9	66.8	-6.1	I	II	
2	町営住宅を修理しながら長く使うことについて	75.6	71.6	-4.0	78.8	74.3	-4.5	71.3	68.4	-2.9	73.7	74.5	0.7	78.8	75.0	-3.8	79.3	64.3	-15.0	II	II	
3	居住者の家族構成と町営住宅の広さが見合うような調整が行われているか		44.9			47.3			43.6			44.4			55.1			33.0			11	III
4	住宅不足を解消するための、民間住宅の建設促進について		49.6			55.5		12	47.8			53.2			42.9			46.9				III
5	現在住んでいる居住地周辺の生活道路の除排雪について	52.0	50.5	-1.5	65.5	60.2	-5.2	44.1	53.5	9.4	48.9	50.1	1.3	48.0	50.3	2.3	55.1	52.4	-2.6	I	I	
6	中古住宅(空き家)の活用について		34.1			13	33.0		41.0			35.2			27.4			33.0				IV
7	「住宅や住宅地」全体についての満足度は?	59.9	51.3	-8.6	63.8	55.6	-8.2	55.5	52.9	-2.6	59.5	51.5	-8.0	60.5	49.2	-11.4	60.8	51.9	-8.9	II	II	

論点 11： 南西地区で居住環境について全般に評価が低いのは、何故か

ほぼ全ての項目に亘って、南西地区では、従来の評価を大きく低下させており、この傾向は際立っている。何かの地域的な背景があるのか、などについて、把握する必要があると思われる。

● 黒瀧課長（建設課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 南西地区では、この数年間に、町営住宅の長寿命化と新築により、2戸増えており、けっして施策的に遅れているわけではない。それでも、評価が低下しているということは、政策的な背景というより、もっと全般的な地域的背景によるものと考えざるを得ない。
- ・ たとえば、ニセコ町市街地では民間アパートが新築されるなど、新たな動きがあって、ニセコ町への移住者の増加傾向が続く中、南西地区が取り残されている、といった印象があるのではないだろうか。また、蘭越町昆布地区において、移住者向け町営住宅の整備など、積極的な住宅施策を行っていることも影響しているのかもしれない。

論点 12： 生活道路の除排雪における地域間格差は拡大したのか、縮小したのか

生活道路の除排雪について、川北地区では評価が低下しており、有島地区では評価が大幅に向上している。しかし、平成 22 年の満足度を見ると、川北地区では満足度が最も高く、有島地区では満足度が最も低かったのが、平成 27 年度においては、その 2 地区の評価の差が大幅に縮まってきたと言える。地域別に、除雪体制についての見直しが行われたのだろうか？

● 黒瀧課長（建設課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 川北地区における評価の低下は、都市部から移住してきた若年層の反応が影響しているのではないかと（→クロス分析必要）
- ・ 有島地区における評価の高まりは、除雪事業者の変更などに伴う一時的現象かもしれない。

論点 13： 住宅や住宅地全体についての評価が、全町的に低下している

住宅や住宅地全体についての評価が、全町的に低下しており、特に、近藤地区の低下傾向が顕著である。この原因となっている要因は、影響度を見ると、「中古住宅（空き家）の活用」に関する評価が他地区と比べても極めて低く、影響度の類型がIVとなっていることから、この課

題領域が影響していることが示されているが、実際には、どうなのか？ 緊急課題として取り組む必要がある。

● 黒瀧課長（建設課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 近藤地区では、近年、中古住宅の空き家が増えている。近藤地区への居住ニーズが減少しているようだ。なお、空いたままの中古住宅は、オーナーが貸したがらないという事情があるようだ。
- ・ 「空き家の活用」が、影響度が高く、類型がIVということなので、ニセコ町でも空き家の現状を把握し、需給のマッチングに向けて、空き家利活用の仕組みを検討する。

7 交通網に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(7)	交通網に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
1	町道や道道など生活道路の整備状況について	59.8	55.1	-4.7	61.3	57.7	-3.6	56.7	56.0	-0.6	61.6	58.3	-3.3	61.4	50.3	-11.1	60.1	51.4	-8.7	II	II
2	歩いて楽しくなるような道づくりが行われているかについて	41.4	38.1	-3.3	37.1	38.0	0.9	44.1	36.2	-7.9	42.7	42.2	-0.4	40.7	38.0	-2.7	14	33.1	-10.3	III	III
3	周辺の道は歩道などの安全性が確保されているかについて	44.5	40.9	-3.6	34.8	29.9	-5.0	39.4	42.4	2.9	49.2	47.9	-1.3	45.1	39.3	-5.9	50.6	32.0	-18.6	III	III
4	デマンドバス「にこっとBUS」の運行状況などについて	47.7	44.2	-3.5	47.4	44.3	-3.1	43.6	41.5	-2.1	49.4	49.8	0.4	50.6	43.6	-7.0	48.8	34.3	-14.5	IV	IV
5	高速道路や新幹線などの整備促進の取組について	34.7	47.9	13.2	33.6	39.4	5.8	35.3	53.7	18.4	34.7	53.9	19.3	33.1	37.2	4.1	38.8	37.4	-1.4	IV	IV
6	市街地街並みの住みやすさや使いやすさについて	46.2	45.0	-1.2	37.9	35.4	-2.5	48.5	50.1	1.6	47.6	47.4	-0.2	47.4	47.4	0.0	47.4	40.7	-6.7	III	III
7	災害時における町内避難経路について	45.0	45.0	0.0	35.4	35.4	0.0	49.1	49.1	0.0	47.6	47.6	0.0	47.7	47.7	0.0	35.7	35.7	0.0	IV	IV
8	「交通網」全体についての満足度は?	43.0	40.9	-2.1	43.3	31.0	-12.3	38.6	56.0	17.4	44.4	47.4	3.0	44.4	38.2	-6.2	48.6	33.1	-15.5	IV	III

論点 14：交通網の評価は、地域間格差が顕著に見られる

交通網については、近藤地区と南西地区で特に評価が低く、中でも、南西地区では大幅に評価が低下し、全町で最も評価の低い地域となっている。その背景は、ほぼ全ての項目で評価を低下させていることから、客観的な要因のほか、住民心理にも何か原因があるのかどうか、把握する必要がある。

◎ 南西地区住民の意識の中に、地区がニセコ市街地から遠く、過疎化しているという意識がある。その理由の一つが、交通の便が悪いこと。高齢化して自家用車を運転できなくなると、公共交通の便が悪いので、市街地でイベントや講演会などがあっても、夜だと結局足がなくて行けない。まちでいくら良い企画を行っても、参加できない疎外感がある。ニセコより蘭越の方が近いので、蘭越のらんらん号に乗ったり、蘭越の施設を利用する傾向になる。ニセコ町民という意識が、薄くなる。(西富)

論点 15：交通網全体については、川北地区の評価低下も顕著

上記の観点に加えて、交通網全体として、川北地区も評価が大きく低下している。反対に、有島地区が、大幅に評価を向上させている。川北地区については、交通網全体の評価が著しく低下し、評価値は全町で最も低くなっている。その背景は、地域特性によるものと推察できるが、有島地区の評価向上の背景は何だろう？ 全町の中でも、有島地区だけが、際立って評価が高い。

交通網全体として全町的に評価が低いことの要因を、影響度から分析すると、デマンドバスの運行や高速交通網の整備促進、災害時の避難経路などが、影響度の類型がIVであることから、影響度の高い影響要因となっており、特に、デマンドバスの運行状況の改善が急務という評価構造が伺える。

- ◎ デマンドバスの予約が、なかなか取れない。1週間前とかでないで、予約を受けてくれない。2、3日前では、受けてくれない。川北地区なんかでは、予約が取れると言われるが、南西地区では、予約を取るのが極めて難しい。(里見)
- ◎ デマンドバスの予約が、5日以上前でないと取れない。受付の人も、運転手も、融通が利かない。町が説明しているデマンドバスの柔軟性が、実際には見られない。(西富)
- ◎ 以前もそんなトラブルがあって、町では、その後改善された筈というが、実際には、変わっていない。相変わらず、南西地区方面に対しての予約対応は悪い。(福井)
- ◎ 単なる印象だが、町外からニセコ町に戻ってくると、町内は未舗装の道路が多いように感じる。(宮田)
- ◎ 新幹線の開通自体は良いが、在来線が廃止されるようなことになると、実際に生活の足を奪われる人もいる。沿線自治体が広域で連携して、ぜひ守ってほしい。(福井)

● 山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

- ・ 今回の調査で、デマンドバスの再点検と強化策をどうするかが、極めて大きな課題であることが見えてきた。南西地区の問題と密接に絡んでいることもわかった。デマンドバスの問題が、他のもろもろの地域課題に深く影響していることもわかった。様々な観点から、デマンドバスの問題を再構築し、充実させる必要がある。

● 黒瀧課長（建設課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 生活道路の整備状況について、評価が低下しているが、舗装率は、管内でも高い方だ。補修も、交通量の多いところから優先的に進めている。

● 福村課長（農政課）からのヒアリング（12/11）

- ・ デマンドバスの制度設計は、当初、3台で運行することが適当であると想定されていた。協議会の議論の中で、小さく始めてプロセスを見ながら必要に応じて大きくしていく、という方針で始めたことだったが、予想を超える利用があったため、距離的な観点で南西方面にしわ寄せがいつているのは理解できる。システムの導入検討において、今のシステム以外で対応するには、川北方面、近藤方面、南西方面の3方向に別々のルートを走らせる必要があったが、利便性や効率性の観点から今のシステムの採用に至っている。オペレーションや運転手の問題がある一方、様々な制約もあり、それだけでは課題解決に至るのは難しい。南西方面の走行距離から考えても、オペレーションの改善だけでは抜本的に難しいのではないかと。そのためには、利用状況やオペレーションの状況などについても、個別に詳細な利用実態ヒアリング調査などをする必要がある。まち懇で聞かれる声が、町民全ての声の代表ではないが、ある程度の調査が必要な時期に来ている。
- ・ デマンドバスに対しては、川北方面からも近藤方面からも市街地からも評価が高く、実

際に、循環バス時代より利用者数は増えている。距離が長いことによるそのしわ寄せが、南西方面に偏っているということなのかなと思う。一方で、デマンドバスを評価し、大変助かっているとの声もあり、デマンドバス自体が悪い仕組みではない。

- ・ ニセコバスが運行する方式は、結果的に、独自運行に比べ運営コストが高くなっている。独自運行では運転手やオペレーション等の人件費が抑えられて、バスも増やすことが可能であり、全体的なコストも低く抑えられることができるが、安全面や補完性を考えればニセコバスが運行するメリットも大きい。それぞれメリット、デメリットがあるのは仕方がない。
- ・ 本州などの他の運行事例を見ても、ニセコ町のような運行方法により2台で運行できているところはなく、かなり苦勞して運行しているものと考えられ、その点はニセコバスの運行による力も大きい。ニセコ町のような地域だと、3台から4台で実施しているのが普通であり、他の多くの事例では土日祝日は運休というところも多い。ニセコ町のデマンドバスは無休で、なおのこと、運行管理が厳しくなる。
- ・ 今回の調査で、デマンドバスへの不満があるということは利用したい潜在的需要(期待値)があってもそれが満たされていない、ということなのだろうから、改善できれば、デマンドバスへの悪い評価は解消されていく。事業としての将来性が見えている、と前向きに受けとめて、早急に積極的な改善に向けた取り組みを行うべきだと感じる。影響度の類型も、一貫してIVのままである。

8 防災・防犯に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
(8)	防災・防犯に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
1	「原子力防災計画」の周知について		41.0		31.5	45.0		45.4		33.9		35.6									III	
2	広域の消防体制・救急体制の充実について		58.8		54.8	63.5		63.0		58.1		47.2										II
3	町民参加の避難訓練について		43.6		36.9	47.9		46.0		49.6		34.8										IV
4	防災拠点としての役場庁舎の整備状況について		34.8		30.8	35.4		36.2		38.0		28.4										III
5	防災備品の定期的な点検の状況について		47.4		45.6	47.8		50.4		46.4		38.8										IV
6	消費者詐欺等から消費者が自らを守る仕組みについて		43.2		41.3	45.6		46.4		44.4		29.0										IV
7	「防災・防犯」全体についての満足度は?		45.0		37.6	47.6		49.1		46.1		37.5										

※ 施策項目のすべてが、前回のアンケート調査では把握されていなかったもので、今回の結果との比較による評価の変化は分析できない。

しかし、今回の結果から、顕著な特徴が見て取れる。それは、南西地区における全般的な評価の低さである。特に、「消費者詐欺等から消費者が自らを守る仕組みについて」は、他項目、他地区のどれと比べても、極めて低い評価となっている。高齢化の進行が大きいことが背景にあると考えられるが、また、「防災備品の定期的点検状況」や「広域の消防体制・救急体制の充実」についても、他地区より大きく評価を落としている。

これらのことから、南西地区特有の背景や要因を考察する必要を感じさせるが、どうだろうか？

「消費者詐欺等から消費者が自らを守る仕組みについて」は、影響度の類型がⅣとなっていることから、影響度、重要度が大きい項目なので、早急な対策が必要である。

●佐藤参事（総務課）からのヒアリング（12/9）

- ・ 「原子力防災計画の周知」が、町内全域で満足度が低いが、ラジオニセコの「防災通信」コーナーで防災情報を毎月10分ずつ話したり、町民センターで原子力防災学習会を行ったり、これまでも住民への周知に努めて来たが、各地区の農家のみなさんなどに直接説明する機会がなかった。そのような状況が、この低い満足度評価の背景にあるのかもしれない。今年度のまちづくり懇談会で、直接説明し意見交換を行えたので、今後も、特に地域の高齢者に避難方法など説明に努めたい。
- ・ 南西地区の満足度が、ほぼ全項目に亘って、他地区より低いことは、防災避難時における交通の足の確保に不安があるからかもしれない。この交通の問題については、防災以外の様々な生活領域においても、デマンドバスが大きな課題として浮上しているため、災害時に公共交通をどう確保するかという観点と、各地区における「自主防災組織」の組織化を強力に働きかけるなどの観点から、自助で及ばない領域についての、共助と公助の仕組みづくりを働きかけたい。
- ・ 「防災拠点としての役場庁舎の整備」についても、全町域で満足度評価が低いが、これまでの検討経過を踏まえて、防災拠点のあり方と役場庁舎の問題を、切り離して検討を深めている。平成27年度末を目標に検討を進め、防災センターと役場庁舎が一つになるか、別々になるのか、基本方針を出すことにしている。しかし、この政策的判断に向けて住民合意をどのように図るかについては、今後の課題である。

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 南西地区には、情報疎外の感覚があるのではないかと。その不安感が、災害時の対応に関する評価の低さに反映しているように思う。

9 医療・健康に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目	ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
(9) 医療・健康に関する次の項目について																					
1 長く元気で暮らせるための健康づくりの仕組みについて	51.1	52.0	0.9	53.4	46.4	-7.0	49.8	55.5	5.7	49.7	55.9	6.1	48.4	45.2	-3.2	54.3	49.9	-4.4	Ⅱ	Ⅱ	
2 健康的な食習慣と、自分にあった運動で健康を作ることについて		55.6			54.9			58.7			57.4			52.9			51.2			Ⅱ	
3 健康診断の受診率を向上させることについて		55.3			55.4	16		57.5			59.8			50.4			48.9			Ⅱ	
4 健康保険、介護保険、医療機関等の広域的取組について		47.2			45.1			52.4			51.0			41.3			40.3			Ⅳ	
5 「医療・健康」全体についての満足度は？		46.4			44.8			52.1			49.4			43.3			41.0			Ⅲ	

論点 16：地域間で評価の傾向が異なる、健康づくりの仕組み

施策項目のうち、前回調査との比較が可能なのは、「健康づくりの仕組みについて」のみである。

この項目についての評価の推移を見ると、市街地区と有島地区では、評価が明らかに高まって

おり、全町的な評価の高まりに寄与している。

一方、川北地区では評価が明らかに低下しており、近藤地区と南西地区も減少傾向が見られ、これらの地区では、評価水準が 50 を下回っている。

この背景と理由は何か。項目としての「健康づくりの仕組み」は、全町同一であると考えられるが、従来から地区独自で取り組んできたことがあるのかによって、評価に影響を与えている場合が想定される。この点については、どのようなことがどのような推移を辿っているのか、ということ踏まえて、分析する必要がある。

● 折内課長（保健福祉課）からのヒアリング（12/8）

- ・ 川北、近藤、南西地区については、健康診断を受けるために市街地まで来る交通機関への不満が背景にあるのかもしれない。また、健康づくり関連の各種催しへの参加に必要な交通手段の確保に加えて、それら催し物等の情報が、各地区できめ細かに伝達されているかどうかについても、集落の常会開催頻度や町内会を抜けた人への対応など、地域事情があるのかもしれない。どのような属性の町民が特に不満を感じているか、たとえば、転入後間もない若い子育て世代や、リタイヤ後の高齢者など、もう少しきめ細かく、実態の把握をする必要がある。
- ・ 予防接種の態勢も、従来の「集団接種」から、個々人のライフスタイルや状況に合わせて日程を組立てられる「個別接種」に移ってきている。それは、予防接種の多様化とライフスタイルの多様化をうまくマッチングさせるための柔軟な仕組みへの変更である。この変化についても、各地区で、十分に情報が行き渡っているのかどうか、という問題もあるだろう。
- ・ 健康づくりに向けた運動教室についても、若い世代の参加が少ないので、開催時間を分けて柔軟に対応できるよう検討を進めている。

※ 施策項目の多くが、前回のアンケート調査では把握されていなかったもので、今回の結果との比較による評価の変化は分析できない。

しかし、今回の結果から、顕著な特徴が見て取れる。それは、「健康保険、介護保険、医療機関等の広域的取り組み」への評価が、影響度の類型Ⅳを示しており、医療・健康全体に対して、大きな影響度合いを示していることである。つまり、健康保険、介護保険、医療機関等の広域的課題にしっかり取り組むことが、住民の期待に応える効果的な施策領域であることを示している。

10 高齢者福祉に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目	ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
(10) 高齢者福祉に関する次の項目について																				
1 高齢者を地域で助け合う身近な見守り、介護、福祉について	46.2	47.4	1.2	50.4	41.6	-8.8	17	46.0	-1.1	43.5	51.5	8.1	47.4	43.5	-3.9	46.1	42.5	-3.6	Ⅳ	Ⅳ
2 高齢者が外出し社会参加する機会について	50.6	48.7	-1.9	52.6	45.1	-7.5	48.9	48.8	0.0	48.1	51.6	3.5	18	44.4	-7.7	54.7	46.3	-8.4	Ⅱ	Ⅲ
3 段差などで歩きにくい状態が解消されているかについて	39.4	39.0	-0.4	40.1	33.9	-6.1	36.1	38.8	2.8	38.2	42.0	3.8	34.2	40.6	6.3	45.4	35.1	-10.3	Ⅲ	Ⅲ
4 災害や犯罪などから高齢者を守る仕組みができてくるかについて	36.3	32.1	-4.2	36.9	31.8	-5.1	36.1	32.5	-3.6	35.9	32.7	-3.2	39.4	34.2	-5.2	34.2	28.9	-5.3	Ⅳ	Ⅳ
5 「高齢者福祉」全体についての満足度は？	42.8	42.7	-0.1	47.4	40.2	-7.2	40.5	40.6	0.1	42.2	47.4	5.2	40.4	36.0	-4.3	42.8	38.2	-4.6	Ⅲ	Ⅳ

論点 17：川北地区においては、高齢者福祉の評価の低下が著しい

川北地区においては、高齢者福祉の全ての項目において、評価の低下が著しい。「段差など歩きにくい状態」や「災害・犯罪への不安」が、特に評価が低くなっているが、市街地から離れた遠隔の山間地域であることを背景として、他地区より不安が大きいことが想定される。

また、そのような物理的要因とは異なる心理的要因、たとえば、川北地区が主催して独自に行ってきた敬老会が、次第に開催されなくなりつつある現状に対する警鐘の意味をこめた評価の低下なのか、明確な判断根拠はない。

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 川北地区で評価が下がっている背景として考えられるのは、世代の交替が進んでいるにもかかわらず、世代間の情報交流が少ないという状況がある。

論点 18：川北地区に次いで、南西地区や近藤地区においても、高齢者福祉の評価の低下傾向が強い

南西地区や近藤地区においても、高齢者福祉の低下傾向が明瞭に見られ、川北地区と合わせ、その背景について把握する必要がある。一方で、市街地区においては、評価が向上した項目も少なくない。特に、高齢者の見守りなど地域全体で支える仕組みづくりについては、市街地区で大幅な評価の向上が見られる。結果として、高齢者福祉全体に対する影響度として、高齢者の地域見守りや災害・犯罪から高齢者を守る仕組みが、影響度の類型で見るとIVとなっていることから、大きな改善効果をもたらす期待を感じることができる。

●折内課長（保健福祉課）からのヒアリング（12/8）

- ・ 原発事故など災害時における高齢者特に独居高齢者の避難については、不安が大きいと思う。そのような方々に、原発事故の際の避難方法等についてどのように周知を図るか、通常の広報手段だけでは不十分かもしれない。
- ・ 世代交替が進んでいる地域と、進んでいない地域の差が、どのような具合になっているのか、把握した方が良い。
- ・ 要支援1及び2の高齢者は、制度が変わって、従来のように施設に入居できなくなったので、不安が高じている可能性がある。行政としても、平成27年度から予定されていた「総合事業」が予定通りは実施できなくなったり、平成28年度から予定している「介護の必要な高齢者の輸送サービス」に対してどのような期待やニーズがあるのか、見えていない。

11 子育て支援に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
(11)	子育て支援に関する次の項目について																				
1	幼児センター、子育て支援センターなどの運営について	59.7	58.5	-1.2	62.3	62.4	0.1	56.0	55.9	-0.1	60.4	60.4	0.0	60.4	55.8	-4.5	58.4	58.2	-0.2	I	II
2	子育て支援に関わる多様な人々のネットワークについて		53.4			55.1		19	55.5			53.4		52.1				52.6			I
3	子育てをしながら安心して働くことができる職場環境について	44.0	41.6	-2.4	49.8	43.8	-6.1	42.1	42.0	0.0	44.6	41.3	-3.3	36.8	40.7	3.8	41.8	46.6	4.8	IV	III
4	子育ての悩みを一人で抱えずに相談や交流できる仕組みについて	46.3	47.2	0.9	50.5	53.0	2.5	46.7	48.9	2.2	45.9	47.6	1.7	38.7	42.4	3.7	44.7	40.7	-4.1	III	IV
5	家庭において家族が協力し合う男女共同の促進について	49.0	46.3	-2.7	53.6	48.3	-5.3	43.1	46.7	3.5	48.3	48.6	0.3	44.0	42.2	-1.8	52.8	44.0	-8.8	IV	IV
6	「子育て支援」全体についての満足度は？	48.2	48.2	0.0	50.8	49.6	-1.2	43.7	50.8	7.1	48.0	49.1	1.1	45.9	42.8	-3.1	48.7	49.1	0.4	IV	IV

論点 19：川北地区における評価の低下が顕著

川北地区では、子育て環境としての職場や家庭の条件整備についての評価が低下している。また、南西地区においても、家庭における子育て環境の評価が低下している。

子育て支援全体に対する各項目の影響度を見ると、影響度の類型がⅣとなっていることから、子育ての悩みを相談したり交流したりできる仕組みづくりと、家庭における男女共同参画の仕組みづくりが、大きな影響を与えており、政策効果が見込まれる領域となっている。

● 折内課長（保健福祉課）からのヒアリング（12/8）

- ・ 小学校のそばに現在建設中の「こども館」は、学童保育と放課後こども教室の二つの政策を一つの施設で行うことにしたもので、前者が福祉、後者が教育の範疇となる。これらは、下校後のこどもの居場所づくりを趣旨としたもの。

● 佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 川北地区の農家では、こどもを遊ばせる機会や場所が少なく、幼児センターが土日休みであることなどから、託児の環境に不満があるのではないかと。観光関係の就業者も、幼児センターが週末に休みであることは、不満の要因の一つかもしれない。

12 障がい者福祉に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(12)	障がい者福祉に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
		1	相互扶助の精神により支え助け合い、共に暮らす地域福祉活動について	46.8			47.1			43.6			49.7			45.4			43.6		
2	障がい者への、教育支援、就労支援、保健・医療・リハビリ支援について	42.1			44.9			40.8			44.6			39.6			42.3			※	Ⅳ
3	障がい者が自立し充実した生活を送るための、相談支援体制について	41.0			44.1			38.3			44.6			39.8			36.5				Ⅳ
4	ユニバーサルデザイン(※注)による安全安心な生活環境の実現について	40.3			39.7			42.1			41.2			40.5			35.9				Ⅳ
5	「障がい者福祉」全体についての満足度は？	41.6			39.0			41.0			44.9			40.5			42.0				Ⅲ

※ 施策項目の全てが、前回のアンケート調査では把握されていなかったもので、今回の結果との比較による評価の変化は分析できない。

障がい者福祉については、全般に評価が低い。影響度の類型を見ると、二つの傾向が見られる。類型がⅢになっている「相互扶助の精神による支え助け合い、ともに暮らす地域福祉活動」と、類型がⅣになっている「障がい者への教育支援、就労支援、保健・医療・リハビリ支援」「障がい者が自立した生活を送るための相談支援」「ユニバーサルデザインによる安全安心な生活環境の実現」は、大きく異なる二つの傾向による評価の違いを示している。前者は、支援する側の主体に住民がいる。後者は、支援する側の主体が主に行政である。前者より、後者に対する期待、重視が強く表われた評価構造となっている。住民は、障がい者に対する支援を、自分自身の課題と捉えるのではなく、行政に支援してほしいと願う意識が、表われているように思える。

13 観光に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
(13)	観光に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
1	農業など他産業と連携する観光産業が活性化しているかについて	44.5	50.9	6.4	42.2	48.2	6.0	20	52.2	3.0	45.4	54.0	8.6	45.9	52.4	6.5	39.8	43.9	4.0	Ⅲ	Ⅱ	
2	魅力的なイベント等による新たな観光需要の掘り起こしについて	43.1	46.4	3.3	39.9	43.4	3.4	44.1	51.0	6.9	45.3	49.2	3.8	44.0	49.6	5.6	41.9	40.3	-1.6	Ⅲ	Ⅳ	
3	MICE(会議、視察、大会、展示会)の誘致と開催について		41.0			42.6			42.6			42.1			41.0				39.1		Ⅲ	Ⅲ
4	周辺町村との広域的な観光振興が行われているかについて	40.4	43.6	3.2	33.8	43.3	9.5	21	47.1	2.4	42.0	43.7	1.7	42.8	47.5	4.7	38.1	39.8	1.7	Ⅲ	Ⅲ	
5	国内や海外からの観光客に対する住民のおもてなしについて	43.3	48.5	5.2	38.7	45.4	6.7	44.7	53.5	8.9	43.6	48.9	5.3	41.0	50.6	9.7	46.3	43.7	-2.6	Ⅳ	Ⅲ	
6	大規模なリゾート観光開発の進め方について	31.6	37.2	5.6	30.1	25.3	-4.7	25.2	44.9	19.7	34.1	39.9	5.8	34.0	34.1	0.1	35.0	34.7	-0.3	Ⅳ	Ⅳ	
7	リゾート観光エリアと市街地商店街の経済循環について		28.9			23.3			30.8			28.5			33.0				28.1		Ⅳ	Ⅳ
8	「観光」全体についての満足度は？	42.0	44.4	2.4	38.0	42.4	4.3	41.8	44.3	2.5	43.9	47.8	3.8	45.7	43.1	-2.6	41.1	42.7	1.6	Ⅳ	Ⅳ	

論点 20：他産業と連携する観光についての評価が、全町的に高まっている

農業など他産業と連携する観光のあり方に対して、全町的に評価が高まっている。リゾート観光地を抱える川北地区のみならず、農村地区においても、同様の評価構造となっている。

●前原課長（商工観光課）からのヒアリング（12/8）

- この評価の背景としては、必ずしも、産業連携の実態が既にあり、そのことに対する住民の評価ということではないだろう。産業連携の実態は、まだほとんど見られない。むしろ、観光業に従事する様々な人たちが、町内全域の各地に住み始めたことによって、その地域コミュニティへの参加を通じて、観光業がこれまで以上に身近な存在として受けとめられるようになった、ということへの住民評価ではないかと思う。

論点 21：観光客に対する住民のおもてなしと大規模リゾート観光開発に関する評価が、全町的に高まっている

上記の論点 20 と類似の傾向として、観光客へのおもてなしとリゾート観光開発についても、ほぼ全町的に評価が高まっている。この二つは、一見関連性がなさそうに見えるが、長期滞在のリゾート観光客が増えるにつれて、住民とのふれあいを望む傾向が生れ、リゾート観光開発に対する住民の懐疑的な反応も、一定の余裕と柔軟性のあるものに変化しつつあることを示しているようにも思える。

大規模リゾート開発を適切にコントロールすることは、相変わらず重要な課題であることは、影響度の類型が、一貫してⅣであることによっても、示されている。

●前原課長（商工観光課）からのヒアリング（12/8）

- 大規模開発の中には、計画が休止しているものもあり、地元住民の意識としては、複雑なものがあると思う。残念に思う気持ちもある筈で、それが、川北地区の満足度の減少ということではないか。

※ 今回質問項目に加えた「リゾート観光エリアと市街地商店街の経済循環について」の評価が、全町的に極めて低い。また、影響度の類型もⅣとなっており、住民意識はこれを重視している。大規模リゾート開発の影響度Ⅳと同様、観光政策における重要課題であることが示されている。

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- 市街地商店の努力が伝わっていない気がする。

14 & 15 農業、及び、林業に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
(14)	農業に関する次の項目について																				
1	地元住民消費者や他産業と連携する新たな農業の展開について	41.8	44.3	2.5	40.6	47.2	6.6	43.5	45.5	2.0	44.1	45.8	1.7	41.3	43.0	1.7	37.6	37.9	0.3	III	III
2	都市住民との交流を深めるグリーンツーリズムの現状について	42.5			47.1			43.4			43.7			44.5			36.2			III	III
3	担い手や後継者の育成など、農業の持続性について	33.5	38.3	4.8	31.3	35.1	3.9	32.0	33.6	1.6	36.3	43.8	7.4	29.2	42.9	13.7	31.6	31.4	-0.2	III	III
4	環境と調和したグリーン農業によるブランド化の展開について	44.3	44.1	-0.2	42.4	44.4	2.0	46.0	42.4	-3.6	45.0	48.9	3.9	44.0	39.7	-4.3	43.8	35.7	-8.1	IV	IV
5	ゆとりと潤いのある、ニセコらしい農村景観について	48.1	50.6	2.5	51.6	50.8	-0.8	49.3	48.7	-0.6	46.6	54.0	7.4	41.8	49.1	7.3	50.8	49.6	-1.2	III	II
6	農業への支援システムづくりについて		39.5			45.0			35.8			41.5			42.1			35.0			IV
7	共同経営体や農作業の受託をする組織をつくり育てることについて		38.7			40.0			22			35.8			44.5			34.2			IV
8	農地の保全状態について	32.8	40.5	7.7	38.4	38.1	-0.3	32.0	41.5	9.4	31.3	42.9	11.6	35.7	33.0	-2.6	32.2	38.7	6.6	IV	IV
9	地域合意に基づく農村地区の集落再編について		44.2			42.7			40.5			47.9			37.8			44.7			III
10	生産性の高い、強い農業が行われているかについて		38.3			41.9			36.2			43.6			31.9			29.9			IV
11	「農業」全体についての満足度は？	37.5	41.9	4.4	37.8	44.7	6.9	37.0	41.8	4.8	37.2	46.1	8.9	41.6	36.9	-4.6	36.8	36.1	-0.8	IV	III
(15)	林業に関する次の項目について																				
1	林業労働者の確保や林業経営の状況について		37.7			37.8			39.9			37.5			23.6			40.0			III
2	計画的な森林づくりの状況について		37.9			39.3			41.8			42.4			23.1			34.5			IV
3	「林業」全体についての満足度は？		37.4			42.2			34.2			43.5			19.1			37.3			IV

論点 22：農地の保全状態についての町民の不安が、概ね和らいできている

農地の保全に対する町民の不安が、川北と近藤地区以外では、概ね緩和される傾向にある。しかし、全体として、評価が低い状態に留まっており、影響度の類型は、引き続きIVであるので、緊急課題であることに変わりはない。

◎ 国営緊急農地再編整備事業の自己負担分 2.7%を、10年後から払えるのか心配になっている。10年後と言えば、自分はもう現役では難しい年代になっている。事業費総額も、当初と比べて上がっているの、自己負担額も増える一方だ。将来性に不安がある。(西富)

●福村課長（農政課）からのヒアリング（12/11）

- ・ 「ニセコらしい農村景観」の評価が概して高いのは、向日葵など景観作物が町内各地に植えられているので、そのインパクトがあるかもしれない。
- ・ 「農地の保全状態」については、満足度評価は上がっているものの、満足度の水準はまだ低い状態だ。国営緊急農地再編整備事業を行っているのに満足度評価が上がっていないというのは、国営緊急農地再編整備事業以前の問題として、外資などに農地が狙われている、という漠然とした不安感が醸成されているからかもしれない。その不安感は、4年経って次第に弱くなっているものの、まだ、依然低い評価に留まっている。
- ・ 農業を始め産業の領域は、その従事者以外の一般住民にとって、わかりにくい専門分野というところもあって、ブラックボックス視されるようになりがちなので、概して評価が低くなるのはやむを得ない傾向にあると思う。また、産業の領域は、行政がどこまで関与するか難しい分野であることから、評価し難い傾向にあると思われる。
- ・ 農業政策で、さまざまな取り組みをしているので、本来は、もう少し積極的に農業政策を知ってもらう情報共有策をすべきと思うが、実際にはあまりできていないのが現状だ。農業振興のための政策に対する評価等、農業政策の実態をもっと町民に情報共有されるべきと考えているので、現状評価が低のはやむを得ないと感じる。

- ・ 今後、しっかり情報の発信を多くして、多くの町民に農業政策を知ってもらおう施策も進めていく必要があると考えている。

※ 今回質問項目に加えた林業に関する項目の評価が、全町的に低い。特に、近藤地区の評価は、とりわけ低い。林業に対する全町的な評価の低さに大きく影響しているのは、「計画的な森林づくりの状況」である。影響度の類型がⅣとなっている。

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・ 近藤地区の林業の評価が低いのは、周辺の山林の伐期が近いエリアで、伐採が目立ち、そのあとの植林などの形跡が見えにくいことが背景にあるのではないかと。

●福村課長（農政課）からのヒアリング（12/11）

- ・ 近藤地区で町有林での盗伐があったことが、影響しているのではないかと。

16 商工業に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)		
		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	
(16)	商工業に関する次の項目について																					
1	観光や農業等他分野と連携した魅力ある地元産品づくりについて	38.6	41.0	2.4	39.3	37.0	-2.4	41.7	48.3	6.6	38.0	41.6	3.6	41.1	36.3	-4.9	33.4	40.8	7.4	Ⅲ	Ⅲ	
2	綺羅街道など市街地の商店街について	35.5	33.4	-2.1	32.1	33.0	0.9	39.9	38.6	-1.3	33.3	32.3	-1.0	33.0	30.1	-3.0	23	31.5	-6.4	Ⅳ	Ⅳ	
3	道の駅ビュープラザのショッピングエリアについて	55.5	54.0	-1.5	57.3	55.8	-1.5	60.2	56.8	-3.5	53.5	56.3	2.9	51.4	43.4	-8.0	57.7	53.7	-4.1	Ⅱ	Ⅱ	
4	観光産業との経済循環について		42.3			46.0			46.3			44.1			38.9			32.2			Ⅲ	
5	生活に必要な商品やサービスを提供する商店が揃っているかについて		20.5	※		18.2			20.4			22.6			21.5			17.3			Ⅲ	
6	小規模であっても多様なビジネスの起業・創業について		32.6			32.2			35.5			34.2			29.8			33.0			Ⅳ	
7	「商工業」全体についての満足度は?	37.7	32.3	-5.4	37.0	33.0	-4.0	38.7	36.1	-2.6	36.1	33.4	-2.7	40.0	30.8	-9.2	39.6	29.3	-10.3	Ⅳ	Ⅲ	

論点 23：商工業に対する評価の地域偏在

綺羅街道やビュープラザなどの商工業エリアに対する評価は、南西地区や近藤地区などでは、評価がかなり低下している。

この背景と理由が、綺羅街道とビュープラザでは異なっていることが想定される。綺羅街道では賑わいの無さ、ビュープラザは観光客の車両の多さなどが、住民にとっての不満傾向の理由と考えられる。特に綺羅街道については、影響度の類型がⅣのままなので、緊急課題でありながら、課題解決の方向性が見えないことも、住民不満の大きな原因になっていると思われる。

※ 今回質問項目に加えた項目の評価が、全町的に低い。特に、「生活に必要な商品やサービスを提供する商店がそろっているかどうか」については、際立って評価が低い。倶知安町の商業エリアへの依存度が高いことが、この評価の背景と思われる。しかし、影響度の類型はⅢとなっており、商業全体の評価に与える影響は大きくはない。住民は、この現状に諦めを感じ、良いとは思っていないものの、この現状を受け容れている意識が伺える。

●前原課長（商工観光課）からのヒアリング（12/8）

- ・ 倶知安の大型スーパーまで車を走らせ、交通費をかけてまで行う買い物と、多少価格や品ぞろいの点で劣っても、すぐ近くの地元の商店で行う買物は、暮らしの中で使い分けしている筈で、一律に現状に不満を抱えているのではないと思う。また、不満であったとしても、重大な問題ではなく、強いて言えば不満、という程度のことではないのか。消費者のニーズをうまくとらえれば、地元の商店においても活路が見いだせると思うが、今起きている観光の拡大を生かし切れていないように思える。地元ならではの可能性はあるはずで、そこに切り込むことに躊躇している。可能性に向けて積極的に取り組む意欲が見られないのが残念。

17 情報共有に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
(17)	情報共有に関する次の項目について																				
1	住民の暮らしに役立つ情報共有の仕組みについて	39.7	48.9	9.2	42.5	45.8	3.2	40.3	54.2	13.9	38.6	51.7	13.1	30.4	45.3	14.9	40.4	42.1	1.7	III	IV
2	行政情報の分かりやすさや迅速性など、情報の内容の質の向上について	40.6	44.0	3.4	45.1	42.4	-2.7	39.4	50.2	10.8	24	46.4	7.3	32.1	40.1	8.0	43.1	38.9	-4.2	IV	III
3	光通信網など情報を活用しやすい通信環境の整備について	50.7	52.2	1.5	55.7	53.2	-2.4	46.9	53.8	6.8	50.1	57.0	6.9	42.5	47.4	4.9	50.7	42.8	-7.8	I	I
4	「情報共有」全体についての満足度は?	41.3	46.6	5.3	42.0	45.1	3.0	39.9	50.0	10.1	41.1	50.4	9.3	32.2	43.6	11.4	43.9	39.4	-4.5	III	III

論点 24：情報共有の評価が、地域により偏りが見られる

有島、市街、近藤地区では、情報共有に関して評価が顕著に向上している。その反対に、南西、川北地区では、評価が概ね低下傾向にある。

地域による評価の偏りの背景には、例えば通信環境などの場合、地デジやコミュニティ FM 導入時に、南西地区の地形条件等による難視聴地区が存在した、という客観的背景もあると思われる。特に、「光通信網など情報を活用しやすい通信環境の整備」や、「行政情報のわかりやすさや迅速性など情報の質の向上」における評価の低下が、南西地区で著しい。川北地区でも、同様の傾向が見られる。これらの地区的な評価のばらつきが、全体としての評価向上を鈍らせている。

また、南西地区においては、地形的要因による背景だけではなく、農村地区として、過疎化、高齢化、少子化などの社会現象が顕著に見られる地域であることから、行政に対する要求水準が高いと類推される（住民参加や行財政に関する不満も他地区と比べて際立って多い地域であることなどから）。

いずれにしても、全町的な情報共有の仕組みだけでは拾いきれない、地域固有の背景や事情に基づく評価意識がありそうである。この点については、まちづくり懇談会などを利用して、地域ごとの住民意向の直接的な把握に努める必要がある。

◎ 南西地区からは、デマンドバスの予約がとりにくく、役場に行くのも大変。結果的に、情報の共有が難しいのが実態。（里見）

◎ ラジオニセコが入らない場所がある。(西富)

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- ・まちづくりの情報の出し方が、行政の都合に合わせて出されているような気がする、という声がある。大きな政策判断をする場合、判断までのプロセスを町民に情報共有することが以前より少なく、結論がいきなり町民に伝えられるため、不安や不満を感じているのではないか。
- ・また、情報伝達はソーシャルネットワーク等の普及により伝達速度が速くなった反面、SNSを使用できない人への情報伝達手段が課題である。昔から「人づて」「口コミ」が一番早い情報伝達の方法だったため、高齢者の集まりや地区の集まりで周知するなど、人を介した細かな取り組みが求められているのではないか。

●山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

- ・影響度の類型が今回IVになった「暮らしに役立つ情報共有の仕組み」については、制度的には、まちづくりトークやまち懇、まちづくり町民講座などがあるが、その実施のタイミングや運営などに問題があるのかもしれない。たとえば、そのような機会に住民と共有しようというまちづくり情報について、情報の熟度があがるまで住民に示すことを躊躇するような空気が、まだ庁内に見られる。この傾向は、不断に克服していかないと、すぐ劣化してしまう。
- ・まちづくり情報については、「情報共有」と「まちづくり事業のスピード」が、トレードオフになりがちだが、両立させなければいけないし、本来両立は可能だ。その基本を示したのが、「まちづくり基本条例」だ。
- ・「まちづくり基本条例」は日本国憲法と同じ、と言って来た意味を、改めて実感している。日本国憲法は、日本国民が権力者を縛るための最高の武器であることを思い起し、まちづくり基本条例も、町民が権力に対して自らを守り主張するためのものだから、その意味を、これまで以上に町民に訴えていく必要がある。
- ・「もっと知りたいことしの仕事」冊子にしても、今現在関心のない人にも配布し続けることの意味は大きい。情報にアクセスしたいときに扉が開いていることが大切。しっかり継続していきたい。

●福村課長（農政課）からのヒアリング（12/11）

- ・行政と住民との情報共有機能が、総体的に低下してきている。それは、制度設計や政策決定、事業化に向けたプロセスにおける情報共有の積み重ねが足りていないと思われる。スピード感を持って取り組む必要がある政策もあるが、現状では、住民生活に直結するような政策はじっくり取り組むことも重要な政策もある。バランスを重視し、しっかり説明責任を果たす取り組みが必要である。
- ・情報媒体についても、ソーシャルメディア（SNSなど）の利用において、ニセコ町は大きく遅れを取っている。情報の可視化にとって、メディアの多様化と、現代社会のトレンドにマッチしたメディアの選択は重要だ。しかし、そのことへの取り組みが弱い。

18 住民参加に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目			ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(18)	住民参加に関する次の項目について		H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
1	住民参加の仕組みが機能しているかについて		49.9	47.5	-2.4	56.2	46.6	-9.6	46.7	49.8	3.1	49.1	49.4	0.3	42.5	49.2	6.7	52.6	43.0	-9.7	Ⅲ	Ⅲ
2	住民自身によるまちづくりの活動について		47.1	44.8	-2.3	49.9	47.1	-2.9	25	46.0	0.9	47.4	44.8	-2.6	37.9	50.5	12.6	49.0	36.6	-12.5	Ⅲ	Ⅲ
3	町内会など地区を良くする活動について		47.1	48.6	1.5	49.9	47.7	-2.3	49.1	50.6	5.5	47.4	49.4	2.0	37.9	51.6	13.8	49.0	44.1	-5.0	Ⅲ	Ⅳ
4	「住民参加」全体についての満足度は?		50.2	47.0	-3.2	53.1	47.3	-5.9	49.5	51.6	2.0	50.2	47.8	-2.3	45.9	48.9	3.0	52.1	41.5	-10.6	Ⅱ	Ⅲ

論点 25 : 住民参加に関する評価の地域格差

南西地区、川北地区においては、住民参加に関する評価が大きく低下している。一方で、近藤地区では、その評価が大きく向上している。その地域格差の原因や背景は、何かあるのだろうか？

地区における町内会等のコミュニティ活動の活性度については、近藤地区と有島地区で大きく評価を向上させている反面、南西地区では明らかに評価が低下しており、川北地区も低下傾向にある。それぞれの地区ごとに、どのような実状なのだろうか？例えば、近藤地区では、新住民と従来からの住民とが、近藤小学校を場に、コミュニティの一体感を向上させていると聞く。また、有島地区では、有島謝恩会を軸に、有島地区全体としてのさまざまな活動があり、参加する若い世帯も増えている。この質問項目「町内会など地区を良くする活動」は影響度の類型においても、Ⅳとなっており、住民参加全体の評価を上げていくうえで、大きな役割を果たす施策領域であることが示されている。

●佐竹事務局長（議会事務局）からのヒアリング（12/9）

- 町内会活動に関する川北地区の状況については、他地区と異なる事情もある。たとえば、曾我地区では、町内会（親交会）は従来から住んでいた農業関係者だけで構成しており、新たに移住してきた人（観光関連事業者が多い）は、町内会に入れていない（設立時の申し合わせがそのまま経過してきているようだ）。移住してきた人たちは、親交会とは別に、地域コミュニティを創っている。その多くは、ペンションなど事業者の地域コミュニティとなっている。このような状況について、設問の評価がどうなっているのかは、従来から住んでいた人と移住者を分けて分析する必要があると思う。

●横山課長、馬淵係長（町民生活課）からのヒアリング（12/10）

- 町内会などの活動に関する地区別の評価を見ると、近藤地区も有島地区も、従来からの住民と移住者が混住しており、互いに信頼感が醸成されている。一方で、川北地区の曾我などでは、従来からの農業者による町内会（親交会）とは別に、ペンション経営者などの世帯同士による新たなコミュニティも形成され、地域コミュニティも、従来の町内会だけではない複合的な状態になってきている。有島地区の「有島の森」「ハイツ周辺」などでも、新たな住民によるコミュニティとして形成されつつあるようだ。
- 南西地区の西富町民センターは、町が運営している。他の町内施設は、地元町内会への指定管理により運営されている。

● 山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

・「町内会など地区を良くする活動」が、影響度の類型Ⅳになっているのは、町内会に入らない人が増えていることへの危機感の表れではないか。近藤地区のように、従来からの住民と移住者が混住して、互いに本音で付き合い信頼し合う関係を築くことはいいと思う。地域特性により、町内会のあり方やコミュニティ形成の姿は多様であっていいが、移住者はコミュニティと謙虚に付き合い、従来からの住民は移住者に寛容な気持ちで接することが、互いに信頼し合えるコツだと思う。

19 行財政に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(19)	行財政に関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
		1	住民に対して迅速で柔軟な対応ができる行政運営について	49.3	44.0	-5.3	52.6	45.8	-6.8	46.4	49.0	2.6	50.1	47.7	-2.4	41.1	37.9	-3.1	52.1	38.5	-13.7
2	役場の行政事務に町民にも見えやすい透明性があるかについて	48.0	43.2	-4.8	52.9	46.4	-6.5	26	46.2	-0.4	48.6	47.4	-1.2	34.1	37.8	3.7	47.0	36.0	-11.0	Ⅲ	Ⅲ
3	研修等により役場職員の能力が向上しているかについて	44.2	39.4	-4.8	45.0	46.7	1.7	46.1	44.3	-1.8	45.7	42.3	-3.4	40.7	34.1	-6.6	45.0	31.2	-13.9	Ⅲ	Ⅲ
4	町の財政の持続可能な運営について	46.8	37.8	-9.0	47.9	38.9	-9.0	49.5	36.7	-12.8	46.3	42.5	-3.8	39.3	34.1	-5.3	46.3	33.9	-12.5	Ⅲ	Ⅳ
5	町の財政状況に関する透明性や分かりやすさについて	44.2	44.2	0	48.8	48.8	0	44.8	44.8	0	48.7	48.7	0	42.3	42.3	0	38.5	38.5	0	Ⅲ	Ⅲ
6	町の状況から見て、住民の負担と受益はバランスが取れているか	44.7	36.0	-8.7	48.8	36.0	-12.9	49.1	37.2	-11.9	44.5	39.9	-4.6	36.5	31.1	-5.5	39.5	32.3	-7.2	Ⅳ	Ⅳ
7	「行財政」全体についての満足度は?	45.9	41.0	-4.9	46.7	44.9	-1.8	47.7	41.6	-6.1	46.3	46.1	-0.2	40.7	36.6	-4.0	42.7	38.1	-4.6	Ⅳ	Ⅲ

論点 26：行財政に関する評価の全町的な低下

行財政に関連する全ての項目において、町内全地区、全町的に評価の大幅な低下が見られる。特に、南西、川北地区の減少傾向が著しい。

この背景にあるのは何か？財政の持続可能な運営に関する項目と、住民負担と受益のバランス項目の影響度を見ると、類型ではⅣとなっていて、行財政全般に関する住民評価を改善する上で大きな効果を生む領域であることがわかる。

● 高瀬課長、川埜係長（総務課）からのヒアリング（12/7）

- ・ 全体として、予想通りの住民評価と思う。その理由は、以前から財政状況の推移・将来見通し（例えば基金取崩し）について町民への情報共有を図ってきて、結果、町財政の現状についての理解が広く浸透しているので、それが、全般的にこのような厳しい評価に結びついていると思う。
- ・ もう少し個別にその背景を考えると、公共施設への投資が近年多く、そのことについて、ランニングコストも含めた将来的な見通しに関するコストパフォーマンスについての情報共有が十分になされているとは言い難い状況にある。補助金などで現状の負担は少ないと言っても、将来にわたってどうなのかなどに関する漠然とした不安感が、住民の意識の中に漂っているのではないかと。具体的には、火葬場の増築や、こども館の建設、駅前倉庫群関連のハード事業、などについての不安感は、住民の間にあるのかもしれない。
- ・ しかし、現行の過疎法は平成 32 年度までの時限立法であり、平成 33 年度以降は制度自体も大きく変わる可能性があることなどから、ニセコ町にとって有利な財政支援制度であ

る過疎債を、今の内に活用し、未来世代に向けたまちづくり投資を重視するという、トップの政治判断は理解できる。

- ・ 項目の、4、ないしは、6、については、町民のこのような不安感を反映した内容になっているものだろう。
- ・ しかし、項目の5、「財政状況に関する透明性やわかりやすさ」については、評価の全体水準としては、決して非常に低いわけではなく、これまでの財政状況に関する町からの情報共有の結果だと伺える。つまり、これまでの情報共有によって、財政に関する諸問題がよりはっきりと見えやすく可視化されたということを前向きに捉え、今後は、特に、「6. 住民負担と受益のバランス」については、将来世代をも見据えた議論ができるよう、いっそうの情報拡充が求められる段階に入ったと言える。
- ・ この点を考慮に入れて、まちづくり事業と財政負担およびその支援策などについて、より実態に即した情報共有が求められる段階に入ったと思う。
- ・ アンケート調査において、「わからない」と回答した人の率も確認する必要がある。

20 連携によるまちづくりに関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(20)	連携によるまちづくりに関する次の項目について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
		1	ニセコを支援・応援する多様な人々との連携について	51.3	53.0	1.7	49.4	53.0	3.7	45.0	51.6	6.6	44.4	54.6	10.2	43.6	53.5	10.0	49.4	53.1	3.7
2	羊蹄山麓や後志管内などにおける、広域行政の推進について	46.2	50.6	4.4	47.5	54.8	7.3	45.4	49.3	3.9	44.3	53.0	8.6	27	48.0	10.7	46.9	47.4	0.5	IV	II
3	国際交流活動を支える仕組みづくりについて	45.3	55.3	10.0	46.3	62.3	16.0	50.0	53.0	3.0	46.3	57.3	11.0	42.6	50.1	7.5	48.5	57.1	8.6	IV	II
4	「連携によるまちづくり」全体についての満足度は?	47.2	50.2	3.0	51.8	52.7	0.9	55.1	47.5	-7.6	50.0	55.0	5.0	47.2	50.7	3.5	47.3	45.2	-2.1	IV	II

論点 27：連携を重視する傾向が、市街地を中心に全町的な傾向となった

連携によるまちづくりに関する全ての項目において、市街地を中心に全町的に評価が高まっている。影響度においては、広域行政と国際交流活動が類型IVとなっていて、高い効果をもたらす緊急度の高い改善対象領域となっている。

● 山本課長（企画環境課）からのヒアリング（12/10）

- ・ この設問は、連携ありき、連携はいいこと、という前提で進めていると思うので、連携自体に否定的な意見は拾えていないと思うが、そのような分析視点も必要かもしれない。

21 まちづくり基本条例及び4年間のまちづくり全体に関するアンケート調査結果から

平成27年度のアンケート調査における設問項目		ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			影響度の類型の変化(※注)	
(21)	情報共有と住民参加を基軸とする「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
		「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体についての満足度は?	52.7	51.9	-0.8	53.7	57.2	3.4	52.5	52.4	-0.1	51.5	54.9	3.4	47.9	49.6	1.8	57.9	45.1	-12.7	
(22)	この4年間(H24～H27)のニセコ町のまちづくり全体について	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27
	この4年間のまちづくり全体についての満足度は?	50.5	50.0	0.4	51.8	53.3	1.5	55.1	54.5	-0.6	50.0	52.2	2.2	47.2	48.8	1.6	47.3	46.4	-0.9		

論点 28： まちづくり基本条例の運用について、南西地区で評価が低下している

南西地区の満足度低下が際立っている。一方、他地区では、誤差の範囲で、満足度評価は現状の維持に留まっている。また、満足度の水準自体も、全体として決して高いとは言えない。川北地区では、他地区より評価が高い。

これは、まちづくり基本条例そのものへの評価ではなく、その運用についての満足度であることから、まちづくりの日常の有り様についての包括的な評価、と言えなくもない。南西地区で特に評価が低下していることは、さまざまなまちづくりの領域における満足度評価の大きな落ち込みと、背景や原因は、同根と思われる。

また、「この4年間のまちづくり全体について」は、満足度評価が、誤差の範囲内でわずかに低下している。評価水準は、大きな差異ではないが、南西地区の満足度がやや低い。南西地区では、個別のまちづくり領域で満足度評価が大きく低下している項目が多い割には、全体についての評価が、誤差の範囲内でほぼ現状維持に近い結果となったことは、留意して良い。個別課題に特化した不満傾向が強く現れているということであり、その個別課題の解決が各領域で強く求められている、と受けとめて良いのではないかと。叱咤激励、ということだろうか。



資料 2-5. 第 1 次見直しの過程

実施日	取組事項	詳細
平成 27 年 6 月 24 日	第 5 次ニセコ町総合計画第 1 回見直し関連予算議決	
平成 27 年 7 月 21 日	第 5 次ニセコ町総合計画第 1 回改訂委託業務契約	業務期間 H27. 7. 24~H28. 3. 18
平成 27 年 9 月 2 日 ~9 月 7 日	役場管理職ヒアリング（第 1 回目）	町民アンケート項目内容の検討
平成 27 年 10 月 5 日 ~10 月 19 日	第 5 次ニセコ町総合計画第 1 回改訂に係る町民アンケート調査実施	送付数：1,500 名 回答数：585 名（回収率 39.0%）
平成 27 年 10 月 20 日 ~11 月 2 日	第 5 次ニセコ町総合計画第 1 回改訂に係る町民アンケート調査実施（英語版）	送付数：27 名 回答数：3 名（回収率 11.1%）
平成 27 年 11 月 30 日 ~12 月 8 日	各地区まちづくり懇談会で総合計画に関する意見交換（里見、西富、福井、宮田、有島）	
平成 27 年 12 月 7 日 ~12 月 11 日	役場管理職ヒアリング（第 2 回目）	町民アンケートによる評価から見出された論点の検証
平成 27 年 12 月 28 日	町長ヒアリング	町民評価と庁内ヒアリングを受けた見直しの方向性への意見聴取
平成 28 年 1 月 8 日 ~1 月 20 日	戦略推進プランにおける目指そう値再設定の実施	町民アンケート結果による町民評価を受け庁舎内各課室が実施
平成 28 年 1 月	町民アンケート結果広報掲載（平成 28 年 1 月号）	
平成 28 年 1 月 28 日	役場課長会議による見直しの方向性について協議	
平成 28 年 2 月 4 日	ニセコ町総合計画見直し検討委員会委員委嘱 期間 平成 28 年 2 月 4 日~第 1 回見直し終了時まで	
平成 28 年 2 月 4 日	第 1 回 ニセコ町総合計画見直し検討委員会開催	
平成 28 年 2 月 9 日 ~2 月 19 日	戦略推進プランの見直し実施	平成 27 年度庁内ローリングとして庁舎内各課室が実施
平成 28 年 2 月 15 日~ 2 月 29 日	第 5 次ニセコ町総合計画見直し案 パブリックコメント	町掲示板、町企画環境課、 ニセコ町ホームページ
平成 28 年 2 月 26 日	役場課長会議による見直しの方向性について協議	
平成 28 年 3 月 2 日	第 2 回 ニセコ町総合計画見直し検討委員会開催	
平成 28 年 3 月 3 日	第 5 次ニセコ町総合計画見直し案 パブリックコメント結果公表	意見件数：0 件
平成 28 年 3 月 14 日	第 2 回定例会で見直し戦略ビジョンの変更議決	



資料2-6. ニセコ町総合計画見直し検討委員会 第1次委員名簿

※敬称略(五十音順)

	氏名	備考
委員長	齊藤 海三郎	
副委員長	高井 裕子	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	上野 菜月	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	佐々木 淳	
	佐々木 眞理	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	鈴木 宏	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	竹石 成樹	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	坪井 訓	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	日野浦 あき子	
	平島 義彦	
	牧野 雅之	
	安岡 洋介	※ニセコ町まちづくり委員会委員
	吉川 洋子	※ニセコ町まちづくり委員会委員



戦略ビジョンの関連担当課

戦略ビジョン	関連分野 (ビジョンの領域)	担当課室等																								
		総務課	企画環境課	税務課	町民生活課	保健福祉課	地域包括支援センター	農政課	国営農地再編推進室	商工観光課	建設課	上下水道課	出納室	議会事務局	農業委員会事務局	学校教育課	町民学習課	有島記念館	幼児センター	地域子育て支援センター	学校給食センター	選挙管理委員会	ようてい地域消費生活相談窓口	消防署ニセコ支署		
1	ニセコ町の自然環境と景観を守り、生活環境を向上させます	1	土地利用																							
		2	自然環境																							
		3	生活環境	●		●		●		●	●	●														
		6	農林業																							
		7	商工業																							
2	ニセコ町の地域資源を活かし、快適な生活基盤を整備します	3	生活環境	●							●															
		4	生活基盤																							
3	資源やエネルギーを地域内で上手に使います	3	生活環境																							
		4	生活基盤	●		●																				
		5	エネルギー							●		●														
		7	商工業																							
4	ニセコ町ならではの環境と調和した農業をつくります	3	生活環境	●				●	●							●										
		6	農林業																							
5	商工業と農業、観光業の連携を進め地域産業の活性化を目指します	3	生活環境																							
		6	農林業	●				●		●																
		7	商工業																							
6	環境や地域文化を生かした観光を進めます	1	土地利用																							
		3	生活環境	●							●	●														
		8	観光																							
7	町民がともに学びあい、支えあう文化を育てます	8	観光																							
		9	学校教育																							
		10	社会教育					●									●	●	●	●	●	●				
		11	芸術・文化																							
		12	スポーツ																							
8	健康寿命を延ばして人生を楽しみます	13	健康・医療					●	●																	
		14	高齢者福祉																							
		14	高齢者福祉																							
9	顔が見える相互扶助の地域社会をつくります	14	高齢者福祉																							
		15	児童福祉					●	●		●									●	●					
		16	障がい者福祉																							
10	災害に強く、安心して暮らせる地域をつくります	14	高齢者福祉																							
		17	防災・防犯	●	●		●																	●	●	
		18	住民自治																							
11	住民みんながまちづくりを考え、活動します	18	住民自治	●	●																					
		19	行財政																							

環境創造都市ニセコ

ニセコビジョン／第5次ニセコ町総合計画（第1次見直し版）

■発行：ニセコ町：平成28年3月